

授業コード	14039		
授業科目名	<b>イメージと神話(後)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後随時、あるいは火曜日12時20分から1時30分まで		

講義の内容	壺絵で読む『イリアス』、『オデュッセイア』と題して、ホメロスのさわりのテキストを読みながら、それが壺絵にどのようにイラストされているかを見てゆく。また映画、ビデオを多用しながら、最古の西洋文学であるホメロスの二つの物語を読んでゆく。一人では読みにくいが、資料を使いながら、質問を出しながら読んでゆくと、たいへん面白いということが体感していただくのが目的である。
到達目標	ギリシア神話の現代性をイメージを通じて知る。
講義方法	パワーポイントをつかった講義形式で行う。ビデオやOHPを多用する。
準備学習	関連する本を多読すること。
成績評価	毎回出席を取る。 また学期中の小レポート(800字程度)を2回、学期末の大レポート(4000字程度)1回を課す。レポート点60%、出席点40%
講義構成	以下のトピックスを予定している。詳しい日程表は初回の授業にに渡す。  1. ホメロスとはだれか、なにが書かれているのか。 2. 『イリアス』関連の映画やビデオを見る 3. 『イリアス』を壺絵というイラストを見ながら、さわりを拾い読みしてゆく 4. 『オデュッセイア』関連の映画やビデオを見る 5. 『オデュッセイア』を壺絵というイラストを見ながら、さわりを拾い読みしてゆく
教科書	岩波文庫『イリアス』松平千秋訳(上・下) 岩波文庫『オデュッセイア』松平千秋訳(上・下)
参考書・資料	授業の都度、指示する。
講義関連事項	神話論

授業コード	14004		
授業科目名	<b>イメージ・トレーニング</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、山崎俊輔(ヤマサキ シュンスケ)、伊東浩司(イトウ コウジ)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、西嶋 淳(ニシジマ アツシ)、高岡智子(タカオカ トモコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	人間科学科へのオリエンテーション。心の中で働いているイメージについて考え、実習を通じてさまざまなイメージを具体的に体験する。
到達目標	人間科学科の「心理臨床領域」と「人間表現領域」の双方における様々な科目の中で重視される「イメージ」に関して、実習を通じて体験学習しつつ理解を深める。「心理系」と「表現系」の各教員が、それぞれの観点から、そのつど課題を出すので、その全てをクリアすること。
講義方法	実習を中心に、講義を交えて行う。正確な実習スケジュールは、授業の第1日目に行う「オリエンテーション」でプリントを配布する。
準備学習	必要に応じて、各担当教員から、次週までに準備すべき内容の通達を行う。
成績評価	各担当者による出欠確認と、実習、レポートまたはテストの評価を合計する。前期・後期の各最終日に課す作文も、評価対象となる。
講義構成	第1回目の授業で「年間スケジュール表」を配布するので、受講者は必ず出席すること。 本科目は人間科学科必修科目なので、受講は原則として人間科学科の学生に限る。それ以外の学生が受講を

	<p>希望する場合は、オリエンテーション(初回授業)の際に担当者(川田)に申し出ること。 公欠、その他の事情でやむを得ず欠席する日には、その日の担当教官を、年間スケジュール表で調べて、各担当教官に申し出て相談すること。</p> <p>4月12日:オリエンテーション【川 田】 4月19日:イメージのコラージュ①(講義)【川 田】 4月26日:イメージのコラージュ②(実習)【川 田】(雑誌、広告、チラシなど持参のこと。) 5月10日:イメージのコラージュ③(ふり返り)【川 田】 5月17日:イメージのコラージュ④(作品発表)【川 田】 5月24日:イメージを使ったグループ体験①【大 西】 5月31日:イメージを使ったグループ体験②【大 西】 6月 7日:ストレス・マネジメント①(認知的評価)【北 川】 6月14日:ストレス・マネジメント②(コーピング)【北 川】 6月21日:ストレス・マネジメント③(リラクゼーション)【北 川】 6月28日:イメージを使ったグループ体験③【大 西】 7月 5日:イメージを使ったグループ体験④【大 西】 7月12日:体験 壺イメージ療法(理論編)【福 井】 7月16日:前期まとめ【川 田】(金曜だが月曜時間割の日) ---- 夏休み ---- 9月20日:スポーツとイメージ①【山 崎】(祝日だが授業日) 9月27日:スポーツとイメージ②【伊 東】 10月 4日:映画と音楽のイメージ①【高 岡】 10月11日:映画と音楽のイメージ②【高 岡】(祝日だが授業日) 10月18日:体験 壺イメージ療法(実習編)①【福 井】 10月25日:体験 壺イメージ療法(実習編)②【福 井】 11月 1日:①お話をつくる【上 村】 11月 8日:②お話を紙芝居にする【上 村】 11月15日:③紙芝居を上演する【上 村】 11月22日:“音”的思考とイメージ・ワーク①【ニシジマ】 11月29日:“音”的思考とイメージ・ワーク②【ニシジマ】 12月 6日:“音”的思考とイメージ・ワーク③【ニシジマ】 12月13日:“音”的思考とイメージ・ワーク④【ニシジマ】 12月20日:後期まとめ【川 田】</p>
教科書	講義資料は随時配布する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。
担当者から一言	基本的に人間科学科以外の学生は受講できない。是非にも受講したいという場合は、初回のオリエンテーション時に、担当教官(川田)に相談すること。

授業コード	14041		
授業科目名	<b>イメージ表現研究(前)</b>		
担当者名	椎原 保(シイハラ タモツ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
講義の内容	現代での表現は、領域が広くその表現方法も多様です。 現代美術では、決められた表現形式はなく、自由に表現活動が行われています。 その様々な現代的な表現のケースを知り、イマジネーションが向けられるフィールドの広がりや微妙な差異を理解していきます。		
到達目標	ここでの目的は、その能力となる「感じること」と「表現すること」を繰り返し、同時に批評や分析も行いながらイメージ・スタディに必要なリテラシーを研究し、クリエイティブな視点を獲得することにあります。 感性を鍛える授業になると思います。 メディア社会に必要な表現力について考えてみよう!		
講義方法	作品制作が中心です。 ワークショップスタイルで授業を進めていきます。 その他ビデオ、スライドによる作品鑑賞、合評、ディスカッションなどを予定しています。		
準備学習	現物の美術に触れるにことが重要です。		

	「展覧会に行く。」「ギャラリーに作品を見に行く。」などしてください。 現代美術についての書物を読むこともお勧めします。 自分の興味の対象外のことも、客観的に研究にできる姿勢が必要です。
成績評価	授業内での、作品発表や発言内容の深さなどで評価します。 出席回数は確実に評価に影響してきますので注意してください。 毎回、授業時間内で小レポートを書いていただきます。 試験は実施しません。 授業を楽しみ、参加の度合いの深ければ、自然と評価も高まるでしょう！
講義構成	講義構成 1、「感じること」について 感じることから始まる世界 見ること、聞くこと、そして情報から、 現代美術の領域で行われているワークショップを体験 表現の可能性についてディスカッションします。 2、「事物と物語」から ソフィー・カルの「本当の話」にならって 3、コミュニケーションと共同作業についての実験 4、協力して制作する 5、写真による表現 写真というメディアを理解するための作品制作と展示 6、事物をあつかった作品 7、空間実験 8、未定の実験 9、「作品鑑賞」……フィールドワーク
教科書	特にありません。 教科書では学べない経験的なことを学びます。
講義関連事項	視覚メディア表現論 イメージ論 イメージトレーニング 現代芸術論
担当者から一言	いままで、経験したことのない表現にチャレンジしてみましょう。 あらたな感性の広がりをもたらしてくれると思います。 そして、一緒に表現の新たな領域をつくっていきましょう。

授業コード	14010		
授業科目名	<b>イメージ論 (前)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜14時40分以後(前期)		

講義の内容	——「イメージ」とは何か—— 「イメージ」と「現実」との関係を現代思想家の著作を辿りながら概説し、それぞれと同時代のアート・シーンの作品を紹介する。最後に、20世紀末(主に1980年代)に一時的に大流行した「シミュレーション・アート」とは何だったのかを再検証し、また、90年代以降にアート界でも話題を集めている、日本のアニメやコミックスのイメージ(そのイメージを借用したアートの作品)についても考察したい。
到達目標	「イメージ」をめぐって展開した現代思想と、それに関連する現代芸術の概要を把握する。また、それらを元に、「イメージ」についての各自の考察を深める。
講義方法	PCプロジェクターやビデオ、CDなど視聴覚資料を使う。
準備学習	平素から、様々な「イメージ」について関心を持ち、「イメージとは何か」というテーマをめぐって、自分なりに考える習慣を持ってほしい。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。

講義構成	「イメージ」とは何か J. P. サルトル『想像力の問題』から P. クロソウスキー『歓待の掟』から M. プランシヨ『文学空間』から C. ロセ『現実とその分身』から R. バルト『明るい部屋』から J. ボードリヤール『シミュラクルとシミュレーション』 ……等々。
教科書	テキストは授業中にプリントを配布する
参考書・資料	参考書は授業中に紹介し、資料は適宜、プリントして配布する。

授業コード	14C01		
授業科目名	<b>演習I(谷口)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	<p>人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。</p> <p>まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。</p> <p>さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省]のような環境活動)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによって、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。</p> <p>本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの倫理」について研究する。</p>
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。
講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回、文献を精読し指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、レポート指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること

担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, <a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a> }
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14C02		
授業科目名	<b>演習I(斧谷)</b>		
担当者名	斧谷彌守一(ヨキタニ ヤスイチ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)

特記事項	自動登録
講義の内容	『イメージの感性をみがく』(サブテーマ「自分にとっての日本的イメージ」) イメージ(ことばと映像)を扱うゼミです。広告、詩、歌詞、写真、絵画などを見ると、はっきりとした意味が伝わってきたり、意味はよく分からなくとも何らかの雰囲気伝わってきます。このゼミでは、そのような意味や雰囲気について考えていきます。まず、自分にとって面白い、あるいは、心に染みる作品を見つけだし、次に、パソコンを使って自分で作品(映像+ことば)を作ることをめざします。気づいていなかった自分が見えてきます。卒業研究では、作品集を制作するのが普通です。
到達目標	Photoshop、Illustratorを使って自分の作品を作ること。 4回生は作品集を仕上げる。
講義方法	作品を制作し、批評し合うことが中心となる。
準備学習	作品の制作・印刷。
成績評価	平常点で評価する。
講義構成	第1回目のオリエンテーションで指示する。
教科書	特になし。必要な資料は配布する。

授業コード	14C03		
授業科目名	<b>演習I(港道)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論する。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。		
到達目標	世界の基礎的理解を徹底し、思考力の向上をはかる。		
講義方法	発表とテキスト購読を交互に行う。		
準備学習	新聞、インターネット、テレビ・ラジオ報道などを通じて、調査する訓練をすること。		
成績評価	参加の程度によって評価する。		
講義構成	例 パレスチナ問題 生殖技術がもたらす社会問題 グローバリゼーションと貧困 等		
教科書	特になし。		
参考書・資料	その都度、必要なものを指示する。		
担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。		

授業コード	14C04		
授業科目名	<b>演習I(上村)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		

講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の
-------	--

	大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。
到達目標	文章能力を高める。
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。
準備学習	小説・ドキュメンタリー関係の本を多読すること。 また授業には必ず文章を書いてくること。
成績評価	授業の準備、授業中の発表。
講義構成	以下の3つの要素からなる。  1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完成させる。(14回)  2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野普著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回)  3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回)  詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書
参考書・資料	都度、指示する。
担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶことが多いです。

授業コード	14C05		
授業科目名	<b>演習I (川田)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜16:30以降、火曜の授業終了後、 その他相談に応じます。予めお知らせしてあるe-メールアドレスに連絡して下さい。		

講義の内容	ゼミ生各自が、自分自身のテーマを見つけて、その研究に取り組みます。 テーマは、どんなことでも構いません。 最も興味のあること、情熱を傾けられることを、研究テーマに選んで下さい。 毎月、月末には、研究報告書を全員に提出してもらいます。 その報告書をもとに、指導教員が個別に助言・指導し、相談にのります。 指導は主にe-メールやe-掲示板で進めていきます。 一生、本気で取り組めるような、自分の「テーマ」を見つけて探究しましょう！ 授業時には、順番に「研究報告」をしてもらいます。また、その内容をもとに、ゼミ全員で徹底的に討論しながら、今後の研究方針を皆で一緒に考えます。
到達目標	最終目標は、4年次に提出する「卒業論文」です。3年性のうちから、テーマを絞り込み、資料を入手し、研究・調査をどんどん進めていきましょう。
講義方法	学生による研究発表と、その内容に基づく全員でのディスカッション。
準備学習	授業時間は、平素の研究成果を発表する場であり、この科目では授業時間外の常日頃の調査・研究が何より大切です。自覚を持って、自分の研究テーマに積極的に取り組みましょう。
成績評価	毎月末の報告書、授業への出席とディスカッションでの積極度、各自の研究発表など、全てを総合して評価します。
講義構成	毎回、学生による研究発表と討論会を実施します。 発表の順番は、前期・後期それぞれの初回授業で決定します。

教科書	各自の研究テーマにあわせたテキストを、個々に紹介します。
参考書・資料	参考文献、参考資料、参考サイトは、各自の研究テーマにあわせて、随時紹介していきます。
担当者から一言	各自が自分自身の研究テーマで研究活動を進めていくゼミです。 研究発表時には、現時点で自分なりに最高の「プレゼン」を見せてください。 ヴィジュアル資料、オーディオ資料も発表では駆使してください。 他の人の発表時にも、ディスカッションに積極的に参加することで、 自分自身の研究の視野も広がります。皆で一緒に頑張りましょう！

授業コード	14C06		
授業科目名	<b>演習I(西)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。
到達目標	(1)意義のある研究課題を設定し、 (2)根拠に基づいた情報を提示しながら、 (3)説得力をもった主張を行いつつ、 (4)首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく。
教科書	教科書は使用しない。

授業コード	14C07		
授業科目名	<b>演習I(横山)</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	横山ゼミではユング心理学に基づいて、「心理学的にものごとを考えること」を学ぶ。こころの深層は、神話、おとぎ話、他文学、絵画などの芸術作品、さらにはこころの病、夢などに現れる、これらを解釈することによってこころの深層にせまる。また風景構成法、箱庭実習、精神病院見学を行い、夏には各自の夢を報告しあう一泊の合宿夢セミナーを行う。
到達目標	ゼミ内での親睦を深め、全員が常識的ではなく、心理学的に物事を視ることを力をつけること。
講義方法	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。
準備学習	心理学的に物を考えることを練習するため、各グループで討論し、発表グループは全員のレジュメを用意すること。
成績評価	発表義務の履行と、出席。
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。
教科書	なし。

参考書・資料	河合隼雄著作集(岩波書店)、横山博「神話のなかの女たち」(人文書院)、「心理療法とこころの深層」(新曜社)など。
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。
担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。

授業コード	14C08		
授業科目名	<b>演習I(北川)</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。		
到達目標	自分の興味や関心に沿った問題意識を掘り下げる研究テーマを見つけ、先行研究を学ぶ。		
講義方法	受講生と相談の上決める。		
準備学習	掘り下げて考えてみたい心理学的なテーマは何かについて考えておく。		
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど		
講義構成	初回に概要を説明する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		

授業コード	14C09		
授業科目名	<b>演習I(森)</b>		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。個人テーマは限定しないので、各自の興味ある事柄で心理学的に分析できるものを選ぶ。現在のところ、親子関係、子育て、児童虐待、児童養護施設における子どものケアなどを中心にしなが、文学、映画、アニメなどの芸術、犯罪、教育その他の社会問題を幅広く扱っている。		
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。		
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。		
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。		
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。		
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。		
教科書	なし		



参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社
--------	--

授業コード	14C10		
授業科目名	<b>演習I(羽下)</b>		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する		
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。		
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。		
準備学習	適宜指示する。		
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる		
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。		
教科書	なし		

授業コード	14C11		
授業科目名	<b>演習I(大西)</b>		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。これらの問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、グループでテーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。		
到達目標	卒業研究に向けての基本的な研究態度、研究方法の習得をめざす。		
講義方法	グループごとにテーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。		
準備学習	青少年をめぐる諸問題について調べておく。		
成績評価	授業への参加、グループでの発表、レポート提出。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青少年の問題に関する文献を読み、ディスカッションを行う。</li> <li>2. 興味のあるテーマについて話し合い、グループ分けを行う。</li> <li>3. グループでテーマを決定する。</li> <li>4. グループでテーマに関する文献収集・調査方法等を検討する。</li> <li>5. 調査を実施し、分析する。</li> <li>6. グループ発表</li> <li>7. まとめとレポート作成</li> </ol>		
教科書	なし		

授業コード	14C12		
授業科目名	<b>演習I(福井)</b>		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		

配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。
到達目標	卒業研究を行うのに必要な、基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 各自の関心のあるテーマを追求して、研究を行う動機づけを高めることができる。
講義方法	発表とディスカッションをメインとする。
準備学習	特になし。
成績評価	授業への参加と関与の度合い、発表、レポートによる。
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。
教科書	特になし。

授業コード	14F01		
授業科目名	<b>演習II(斧谷)</b>		
担当者名	斧谷彌守一(ヨキタニ ヤスイチ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	『イメージの感性をみがく』(サブテーマ「自分にとっての日本的イメージ」) イメージ(ことばと映像)を扱うゼミです。広告、詩、歌詞、写真、絵画などを見ると、はっきりとした意味が伝わってきたり、意味はよく分からなくとも何らかの雰囲気が伝わってきます。このゼミでは、そのような意味や雰囲気について考えていきます。まず、自分にとって面白い、あるいは、心に染みる作品を見つけだし、次に、パソコンを使って自分で作品(映像+ことば)を作ることをめざします。気づいていなかった自分が見えてきます。卒業研究では、作品集を制作するのが普通です。
到達目標	Photoshop、Illustratorを使って自分の作品を作ること。 4回生は作品集を仕上げる。
講義方法	作品を制作し、批評し合うことが中心となる。
準備学習	作品の制作・印刷。
成績評価	平常点で評価する。
講義構成	第1回目のオリエンテーションで指示する。
教科書	特になし。必要な資料は配布する。

授業コード	14F02		
授業科目名	<b>演習II(谷口)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	<p>人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。</p> <p>まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。</p> <p>さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省との共同研究]のような環境活動など)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによつて、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。</p> <p>本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの倫理」について研究する。</p>
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。
講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回文献を精読し、指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、卒論指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること

担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室, <a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a> }
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14F03		
授業科目名	<b>演習II (港道)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論しながら、卒業研究の準備を進める。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。
到達目標	世界を深く理解し、それに対応する思考力を高め、卒業論文の作成に資する論理力を要請する。
講義方法	発表・討論とテキスト購読を交互に進める。
準備学習	新聞、インターネット、テレビ・ラジオ報道に当り、問題調査の訓練をすること。
成績評価	参加の程度によって評価する。
講義構成	<p>例</p> <p>パレスチナ問題</p> <p>生殖医療技術が生む社会問題</p> <p>グローバリゼーションと貧困 等</p>
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。

担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。
---------	-----------------

授業コード	14F04
-------	-------

授業科目名	<b>演習Ⅱ(上村)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		

講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎的な書き方、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。
到達目標	文章能力を高める。
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。
準備学習	小説、ドキュメンタリー関係の本を多読すること。
成績評価	授業の準備、授業中の発表。
講義構成	以下の3つの要素からなる。  1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完成させる。(14回)  2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野普著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回)  3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回)  詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書
参考書・資料	都度、指示する。
担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶことが多いです。

授業コード	14F05		
授業科目名	<b>演習Ⅱ(川田)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	月曜16:30以降、火曜の授業終了後、 その他相談に応じます。予めお知らせしてあるe-メールアドレスに連絡して下さい。		

講義の内容	ゼミ生各自が、自分自身のテーマを見つけ、その研究に取り組みます。 テーマは、どんなことでも構いません。 最も興味のあること、情熱を傾けられることを、研究テーマに選んで下さい。 毎月、月末には、研究報告書を全員に提出してもらいます。 その報告書をもとに、指導教員が個別に助言・指導し、相談にのります。 指導は主にe-メールやe-掲示板で進めていきます。 一生、本気で取り組めるような、自分の「テーマ」を見つけ探求しましょう！ 授業時には、順番に「研究報告」をしてもらいます。また、その内容をもとに、ゼミ全員で徹底的に議論しながら、今後の研究方針を皆で一緒に考えます。
-------	---

到達目標	最終目標は、「卒業論文」の完成です。「どこへ出しても恥ずかしくない」「生涯、誇りに思える」、そんな論文を目指しましょう！
講義方法	学生による研究発表と、その内容に基づく全員でのディスカッション。
準備学習	授業時間は、平素の研究成果を発表する場であり、この科目では授業時間外の常日頃の調査・研究が何より大切です。自覚を持って、自分の研究テーマに積極的に取り組みましょう。
成績評価	毎月末の報告書、授業への出席とディスカッションでの積極度、各自の研究発表など、全てを総合して評価します。
講義構成	毎回、学生による研究発表と討論会を実施します。 発表の順番は、前期・後期それぞれの初回授業で決定します。
教科書	各自の研究テーマにあわせたテキストを、個々に紹介します。
参考書・資料	参考文献、参考資料、参考サイトは、各自の研究テーマにあわせて、随時紹介していきます。

担当者から一言	各自が自分自身の研究テーマで研究活動を進めていくゼミです。 研究発表時には、現時点で自分なりに最高の「プレゼン」を見せてください。 ヴィジュアル資料、オーディオ資料も発表では駆使してください。 他の人の発表時にも、ディスカッションに積極的に参加することで、 自分自身の研究の視野も広がります。皆で一緒に頑張りましょう！
---------	---

授業コード	14F06		
授業科目名	<b>演習II(西)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。
到達目標	(1)意義のある研究課題を設定し、 (2)根拠に基づいた情報を提示しながら、 (3)説得力をもった主張を行いつつ、 (4)首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく
教科書	教科書は使用しない。

授業コード	14F07		
授業科目名	<b>演習II(横山)</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
講義の内容	演習1に準ずる。後期には個人で卒論のテーマを発表してもらって討論、指導する。		
到達目標	7月までに卒論の頭だしが出来て、なおかつ、3回生のグループ内での指導がしっかり出来るようになること。そ		

	して、秋には卒論の中間発表が出来て、卒論をしっかり仕上げること。
講義方法	演習1に準ずる。4回生は3回生に指導的に関わる。
準備学習	3回生を指導することと、論文の引用文、参考文献の書き方、章立ての仕方などを共同図書室にある優秀な卒論を参考に学んでおくこと。
成績評価	出席と発表義務の履行。
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。
教科書	なし。
参考書・資料	河合隼雄著作集(岩波書店)、横山博「神話のなかの女たち」(人文書院)、「心理療法とこころの深層」(新曜社)など。
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。
担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。

授業コード	14F08		
授業科目名	<b>演習II(北川)</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。		
到達目標	各自の研究テーマを掘り下げて検討する。効果的な発表方法を身につけ、他者と意見交換をはかれるようになる。		
講義方法	受講生と相談の上決める。		
準備学習	研究テーマについて、資料収集をしながら、自分の考えを整理する。		
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど		
講義構成	初回に概要を説明する。		
教科書	授業中に適宜紹介する。		

授業コード	14F09		
授業科目名	<b>演習II(森)</b>		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	前期のグループ研究発表、体験学習(箱庭療法)の間に、各自の研究テーマについて調査を進め、卒業研究の計画をまとめる。後期の個人発表で、研究の中間報告をする。3回生のグループ発表や全体討論にも参加する。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。		
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。		
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。		

	後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。
教科書	なし
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社

授業コード	14F10		
授業科目名	<b>演習II(羽下)</b>		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する		
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。		
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。		
準備学習	適宜指示する。		
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる		
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。		
教科書	なし		

授業コード	14F11		
授業科目名	<b>演習II(大西)</b>		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。こうした社会問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、テーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。なお、個人テーマは青少年の問題に限定しない。		
到達目標	卒業研究に必要な心理学の研究能力を身につける。		
講義方法	テーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。		
準備学習	自分のテーマについて考えておく。		
成績評価	授業への参加、発表、レポート提出。		
講義構成	初回授業で説明する。		
教科書	なし		

授業コード	14F12
-------	-------

授業科目名	<b>演習Ⅱ(福井)</b>		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。 4回生については、ゼミの進行と並行して、各自の研究テーマを深め、卒業研究を進めるよう個別指導を進めていく。
到達目標	自分で関心領域に関する卒業研究を進め、卒業論文としてまとめることができる。
講義方法	主として個別指導による。
準備学習	普段から、関心領域に対してアンテナを張り、情報収集をすること。
成績評価	卒業研究への取り組みを重視する。
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。
教科書	特になし。

授業コード	14K01		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(谷口)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	人間・環境学を中心とした本演習では、一方で人間と環境についての新しい理論を研究しつつ、他方で臨床的・フィールド的な身体知を培っていく。このような理論の探求では、人間をめぐる環境倫理と生命倫理を研究することになる。 まず、パーソナリティと心の形成のメカニズムを明らかにする。次に、人間が地球環境の破壊をもたらした原因を追求し、環境倫理学の構築をめざす。さらに、環境の主体である生命の概念と深くかかわる医療環境や脳死・臓器移植そして癒しの諸問題を、生命倫理学の立場からとりあげる。 さらに、オフキャンパス・アクティビティ(甲南大学環境教育野外施設のフィールド活動や国営明石海峡公園「あいな里山公園の創造」[国土交通省との共同研究]のような環境活動など)を通じて、人生の諸問題を解決する能力である「知恵」をみがく。さらに、例えば自然環境において身体行為を伴った環境教育をおこなうことによつて、心に病いをもつ現代人を健全なものにする試みも実施する。 本演習では、今年度とくに、生命倫理と環境倫理を架橋とする「ケアの論理」について研究する。
到達目標	実践と理論、そして統合する能力を培う。
講義方法	ノート講義、フィールドワーク、研究発表
準備学習	各回文献を精読し、指示された発表をレジュメにまとめておく。
成績評価	レポート、出席、プレゼンテーション
講義構成	文献講読、レポート指導
教科書	その都度、指示する。
参考書・資料	その都度、指示する。
講義関連事項	哲学、倫理学、環境系関連科目を並行してとること

担当者から一言	人間と環境をめぐる生命倫理学も環境倫理学も、基本的には「ケア」による応用哲学の分野です。したがって
---------	---



	現代社会の身近で具体的な諸課題を取り上げるつもりです。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14K02		
授業科目名	<b>演習III(港区)</b>		
担当者名	港区 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	現代社会が抱える諸問題を各自が調査し、報告し、討論しながら、卒業研究の準備を進める。また、外国語のテキストを読むことを通じて、論理的思考力を養成する。		
到達目標	世界を深く理解し、問題に対処する思考力を養成する。		
講義方法	発表・討論とテキスト購読を交互に進める。		
準備学習	特になし。		
成績評価	参加の程度によって評価する。		
講義構成	例 パレスチナ問題 生殖医療技術が生む社会問題 グローバリゼーションと貧困 等		
教科書	特になし。		
参考書・資料	その都度指示する。		
担当者から一言	暗い世界を明るく生きましょう。		

授業コード	14K03		
授業科目名	<b>演習III(上村)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日 お昼休み		

講義の内容	この演習の目的は、エッセイ・自分史・聞き書き・小説・戯曲・論文などの文章表現を極めることによって、言葉の大切さとその力を実感してもらうことである。作文の基礎的な書き方、文章の組み立てかた、テーマの探し方、取材のしかた、語彙の使い方等を、実践的に学ぶ。		
到達目標	文章能力を高める。		
講義方法	実践的な授業である。受身的な講義は最小限にとどめて、自分が準備してきたものを合評しあうことに主眼を置く。		
準備学習	小説・ドキュメンタリー関係の本を多読すること。 また授業には必ず文章を書いてくること。		
成績評価	授業の準備、授業中の発表。		
講義構成	以下の3つの要素からなる。  1) 毎回準備してきた課題を発表する。レギュラーゲストとしてプロの作家に14回ほど来てもらい、学生が準備してきたものを添削してもらい、一緒に評論しあうことによって、後期の終わりまでには作品を少なくともひとつ完		

	成させる。(14回)  2) 作文構成の基礎を学ぶと同時に、大野普著『日本語練習帳』を読み、練習問題をしながら日本語の感性を磨く。(11回)  3) 人の話を聞くこと、取材する等の能力を高めるために、さまざまな分野のゲストにきてもらったり、街にでたりしながら一緒に学ぶ。(3回)  詳しい日程表は初回の授業のときに渡す。
教科書	大野晋『日本語練習帳』岩波新書
参考書・資料	都度、指示する。
担当者から一言	ひたすら実践的な授業ですから、授業を創るのは学生さんたちです。積極的に参加すればするほど、学ぶことが多いです。

授業コード	14K04		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(川田)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	前期:月曜16:30以降、後期:水曜13:00～15:00。 通年:火曜の授業終了後。		

講義の内容	演習Ⅰ・演習Ⅱの学生による研究発表を聴き、その後のディスカッションに参加してもらう。様々なテーマの研究に触れて、視野を広げ、自分自身の言葉で考えをまとめ、発言できるようになってほしい。		
到達目標	様々な話題に柔軟に対応し、自分自身の物の見方や考え方を確立し、それを「討論」の場で発言できるようになること。		
講義方法	発表を聞き、ディスカッションで自分の意見を発言する。		
準備学習	翌週の発表者の研究テーマに合わせて、資料や情報を集めておき、ディスカッションに役立てよう。		
成績評価	出席状況とディスカッションでの発言状況など積極性を評価する。		
講義構成	発表学生(演習Ⅰ・演習Ⅱの履修生)のテーマ選択に沿ってディカッションの内容が決定される。予定としては、1日に2人の発表があるので、毎回2つの異なったテーマでのディスカッションがある。内容は、1週間前の授業時に予告することにした。		
教科書	教科書は特に使用しない		
担当者から一言	ディスカッションの内容に関して、毎回、予め自分で調べて、ディスカッション当日に活かすこと。積極的な参加・発言を待っています！		
その他	いわゆる「副ゼミ」としての登録になるので、登録前に必ず担当教員に相談し、受講の了承を得ること。		

授業コード	14K05		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(西)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術、思想、現代文化の領域からそれぞれに研究テーマを決め、論文作成にじっくり取り組むゼミ。		
到達目標	(1) 意義のある研究課題を設定し、 (2) 根拠に基づいた情報を提示しながら、		

	(3)説得力をもった主張を行いつつ、 (4)首尾一貫した論述をおこなう、 という技術の習得を目指す。
講義方法	毎週1人ないし2人ずつそれぞれの研究内容についてプレゼンテーションを行ったうえで、全員でディスカッションをする。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	毎回の出席と発表、議論での発言によって評価する。
講義構成	ゼミ生がそれぞれの研究関心によって順次発表をおこなっていく
教科書	教科書は使用しない。

授業コード	14K06		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(横山)</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	横山ゼミではユング心理学に基づいて、「心理学的にものごとを考えること」を学ぶ。こころの深層は、神話、おとぎ話、他文学、絵画などの芸術作品、さらにはこころの病、夢などに現れる。これらを解釈することによってこころの深層にせまる。また風景構成法、箱庭実習、精神病院見学を行い、夏には各自の夢を報告しあう一泊の合宿夢セミナーを行う。		
到達目標	神話、おとぎ話の解釈を通して、無意識の力を理解し、心理学的に物事を考えられるようになること。		
講義方法	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
準備学習	2回生時の臨床心理学で講義されたことを復習し、関連文献を読んでおくこと。		
成績評価	発表義務の履行と、出席。		
講義構成	グループ別に題材を選び発表して、討論を行い、教員、TAが必要に応じてコメントする。		
教科書	なし。		
参考書・資料	河合隼雄著作集(岩波書店)、横山博「神話のなかの女たち」(人文書院)、「心理療法とこころの深層」(新曜社)など。		
講義関連事項	2回生時臨床心理学を受講のこと。		

担当者から一言	こころの深さ、自らのこころのなかにも異常性があることに興味のある人。
---------	------------------------------------

授業コード	14K07		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(北川)</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	人は他者との関係のなかで成長・発達します。心理臨床も関係性を通しての支援といえます。人格発達やメンタルヘルスを関係性という視点から考えてみたいと思います。虐待といった関係性にそのものの問題や、関係性を育むことに困難を抱えやすい自閉性障害、そのほか、さまざまなテーマが関連してくると思います。前期は共通テーマを設定して関係性についての理解を深めた上で、後期は各自の関心テーマについて個人の研究発表を行う予定です。		
到達目標	自分の興味や関心に沿った問題意識を掘り下げる研究テーマを見つけ、先行研究を学ぶ。		
講義方法	受講生と相談の上決める。		

準備学習	掘り下げて考えてみたい心理学的なテーマは何かについて考えておく
成績評価	授業への参加、発表、討論、レポートなど
講義構成	初回に概要を説明する。
教科書	授業中に適宜紹介する。

授業コード	14K08		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(森)</b>		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜4限)、後期(火曜4限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜授業後		

講義の内容	演習Ⅰの同じ内容で進める。前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。全体テーマは、映画を取り上げる予定であるが、受講生と相談の上決める。個人テーマは限定しないので、各自の興味ある事柄で心理学的に分析できるものを選ぶ。現在のところ、親子関係、子育て、児童虐待、児童養護施設における子どものケアなどを中心にしながら、文学、映画、アニメなどの芸術、犯罪、教育その他の社会問題を幅広く扱っている。
到達目標	卒業研究のために必要な資料収集、分析、考察能力を身につける。自らの意見をまとめて発言し、文章にまとめる力をつける。
講義方法	前期はグループ研究発表と体験学習(箱庭療法)を交えながら、各自の研究テーマを発展させる。後期は、まず全体テーマによる討論を行ったのち、個人の研究発表を中心に進めていく。
準備学習	自らのテーマについて調査し、発表の準備をする。
成績評価	授業への参加、発表、レポートによる。
講義構成	初回のオリエンテーションで決定する。
教科書	なし
参考書・資料	森茂起『トラウマの発見』講談社、森茂起、森年恵『トラウマ映画の心理学』新水社
その他	演習Ⅰの受講生数にゆとりがあるときのみ開講する。

授業コード	14K09		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(羽下)</b>		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	各自のテーマに沿って指導する
到達目標	卒業論文完成にむけての準備・考察を行う。
講義方法	人間に関することで、自分が関心をもったテーマを発表し、まとめる形式。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	講義の出席、発表、レポートによる
講義構成	各自の選んだテーマについて順次考察していく。
教科書	なし

授業コード	14K10		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(大西)</b>		
担当者名	大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	少年犯罪や非行、学校でのいじめ・不登校、家庭での児童虐待など、青少年をめぐる問題は多岐にわたる。これらの問題を心理学的な視点から検討する力をつけるため、前期は、青少年の問題についての論文を概観し、グループでテーマを決めて研究計画を練る。後期は、研究計画を基に調査を実施し、その結果を分析して、発表する。
到達目標	卒業研究に向けての基本的な研究態度、研究方法の習得をめざす。
講義方法	グループごとにテーマを選び、研究の計画を立て、実行し、発表する。
準備学習	青少年をめぐる諸問題について調べておく。
成績評価	授業への参加、グループでの発表、レポート提出。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青少年の問題に関する文献を読み、ディスカッションを行う。</li> <li>2. 興味のあるテーマについて話し合い、グループ分けを行う。</li> <li>3. グループでテーマを決定する。</li> <li>4. グループでテーマに関する文献収集・調査方法等を検討する。</li> <li>5. 調査を実施し、分析する。</li> <li>6. グループ発表</li> <li>7. まとめとレポート作成</li> </ol>
教科書	なし

授業コード	14K11		
授業科目名	<b>演習Ⅲ(福井)</b>		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		

講義の内容	年間を通して、心理学的な研究法に馴染み、社会的な問題を心理学的な観点から把握・分析し、解決するための基礎を学ぶ。前期は、ゼミの雰囲気慣れ、周囲とバランスよく協調しながらも自分の意見を述べる訓練を行うと共に、基礎的な研究方法について理解する。後期からは各自の興味・関心がある分野について、先行研究を探し、文献購読と発表、ディスカッションをメインとする。 個人のテーマは、愛着、トラウマ、解離、ストレスの分野から選択することが望ましいが、話し合いの上で各自の希望を尊重する。
到達目標	卒業研究を行うのに必要な、基礎的な知識とスキルを身につけることができる。 各自の関心のあるテーマを追求して、研究を行う動機づけを高めることができる。
講義方法	発表とディスカッションをメインとする。
準備学習	特になし。
成績評価	授業への参加と関与の度合い、発表、レポートによる。
講義構成	初回オリエンテーションにおいて、話し合いの上で決定する。
教科書	特になし。

授業コード	14J11		
授業科目名	<b>外国文献基礎演習（1クラス）</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、高岡智子(タカオカ トモコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	高岡:月曜日12:10～13:00 西:金曜日3限目		

講義の内容	前期は表現領域について、後期は心理学について、英文で講読をおこなう授業。
到達目標	英語論文における考証の手続きを解釈する基本を学ぶ。
講義方法	順番に英文を読み、訳してもらい随時説明を加える。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	英文和訳の試験をおこなう。出席も加味する。
講義構成	高岡(前期):音楽療法のルーツはどこにあるのか。大作曲家モーツァルトやベートーヴェンは心の病とどのように対峙し、作曲活動を行ってきたのか。前期は音楽療法と西洋音楽についての内容理解を深める。 西(後期):人間の心理や性格について論じられた文章を読む。
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	講義中にプリントを配布する。

担当者から一言	必ず予習をすること。
---------	------------

授業コード	14J12		
授業科目名	<b>外国文献基礎演習（2クラス）</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)、宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	金曜日4時30分以降		

講義の内容	社会問題を扱う論文を精読することによって、厳密な読み方を鍛錬し、論理的な思考力を養成する。
到達目標	英語の基本構造の理解を徹底する。
講義方法	一回に数人の参加者が数行を担当し、訳文を修正しつつ解説する。
準備学習	必ず予習してくること。
成績評価	前期末・後期末の2度の試験で評価する。
講義構成	毎回、数人の参加者がテキストを日本語訳し、全員で検討し、必要な場合は修正し、さらに解説を加える。
教科書	テキストは初回に配布する。
参考書・資料	英語の文法書。

担当者から一言	きちんと勉強すれば、努力は必ず実ります。
---------	----------------------

授業コード	14J13		
授業科目名	<b>外国文献基礎演習（3クラス）</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜3限)、後期(月曜3限)
オフィスアワー	横山:オンデマンドで／ 上村:授業終了後随時。必要なら別の時間をそのとき設定する。		

講義の内容	上村(前期)宗教学者ミルチャ・エリアーデの英文の文献を読み、論文の読み方を学ぶ。 横山(後期)基礎的なユング心理学の英文の文献を読み、論文の読み方を学ぶ。
到達目標	英語論文を読む基礎的力を身につける。特に大学院進学希望者には必要不可欠である。
講義方法	順番に英文を読み、訳してもらい随時説明を加える。
準備学習	必ず1度は当たり訳さなければならないので、必ず予習してくる。
成績評価	英文を2問あるいはそれ以上出題するので、それを和訳してもらう。辞書持込可。出席も加味する。
講義構成	基本的に学生が1～2文章を読み、訳してもらう。後で教員が説明を加える。
教科書	講義の一番最初の時間にプリントを配布。
担当者から一言	予習をすること。

授業コード	14014		
授業科目名	<b>外国文献研究I</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	金曜3限		

講義の内容	本格的なドイツ語文献とその英語訳を読んでいく、ハードだがやりがいがある講読授業。英語文献読解力、ドイツ語文献読解力のどちらか、または、両方を身につけたい人、思考力を鍛えたい人、大学院を目指したい人を歓迎する。		
到達目標	大学院修士課程を目指す人のために英語読解力を養成し、更に、余力のある人のためにドイツ語読解力を養成する(大学院の授業ではドイツ語またはフランス語が必要になることがある)。		
講義方法	英語とドイツ語の訳を参加者が読み、解説を加えることで、文献を正確に読解する訓練を行う。英語だけの参加も可能だが、毎回、全員予習が必須。前期、後期の最終回に英語の試験を行い、これが大学院入試のための模擬試験ともなる。		
準備学習	ドイツ語文法(中級ドイツ語、上級ドイツ語)を修得済、あるいは履修中であることが望ましい。		
成績評価	模擬テストも加味するが、基本的に平常点で評価する。		
講義構成	前期はドイツ語と英語でフロイトを読む予定。後期のテキストについては参加者の関心を考慮して決定する。第1回目のオリエンテーションで授業の内容・進め方について相談するので、必ず出席すること。		
教科書	教科書は用いず、プリントを配布する。		
参考書・資料	授業の中で適宜指示する。		

授業コード	14015		
授業科目名	<b>外国文献研究II</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、神山すみ江(コウヤマ スミエ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜4限)、後期(月曜4限)
オフィスアワー	授業終了後随時。		

講義の内容	本格的なフランス語文献とその英語訳を読んでゆく。初めてアカデミックな文献をよむことになる。英語文献読解力あるいはフランス語文献読解力、あるいはその両方をつけたい人、さらに思考力を鍛えたい人を対象とする。文献を読みこなすためには、背景の基礎知識と、理論的なものの考え方が必要なので、それを涵養するのが目的である。		
到達目標	学術的文献を読みこなす技術と知識を身につける。		
講義方法	与えられたテキストを正確に読解する訓練のために、輪読形式で読解してゆく。必ず予習をして翻訳文を用意してくる。ただし自分が当たった場合は、準備してきた文章を棒読みせず、もう一度頭のなかで骨組みを再構築しながら翻訳を試みる。		

準備学習	背景の基礎知識をつけるために、指定され、あるいは配布された資料は必ず読み、予習をして授業に臨むこと。
成績評価	基本的に平常点で評価するので、必ず出席すること。
講義構成	フランスのギリシア神話学者たちの作品を読んでゆく。本格的なフランス語文献と、その定評ある英語翻訳文献を読みこなしてゆく訓練をつむ。日本語で書かれた関連資料も配布するので、必ず読んでくること。
教科書	プリントを配布する。
参考書・資料	都度プリントで渡すか、あるいは指示する。
講義関連事項	外国文献基礎演習(すでに履修していることが望ましい)、中級フランス語(すでに履修しているか、あるいは同時履修が望ましい)、上級フランス語。
担当者から一言	親密な授業になると思うので、厳しい中に、楽しさを見出してゆきたいと思います。

授業コード	14021		
授業科目名	<b>環境学基礎論Ⅰ(前)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	<p>人間の環境は、身体と行動を介して自然環境、社会環境、心の環境が成立すると考えられる。それらの環境は、人間とは無関係に成立しているのではなく、人間と相互作用することで自己形成される。</p> <p>「自然環境」では、人間が適度に関与することで生態系が維持されている。例えば、森林の保全や農耕によって自然環境は健全に循環する。「社会環境」では、経済活動など人間の関与が大きい。そしてその社会現象も、自己組織的にシステムが出来上がる。例えば、商品の価格も市場において自己組織的に決定される。「心の環境」では、いうまでもなく人間自身の問題であり、それは“心のあり方”が中心となる。例えば、親子関係において、神経質の親は神経質な子どもを育てることになり、その子の心は母親のそのような性格を内化して自己形成されることになる。</p> <p>このように、自己組織のシステム論、生態学的心理学、環境教育学などから主体と客体が“複雑に”相互作用することによって自己形成される「人間の多様な環境」を環境学の観点から考察していく。</p> <p>環境学基礎論Ⅰでは、講義構成の1・2を中心に検討する。</p>
到達目標	身近な環境について意識を覚醒すること。
講義方法	ノートを中心に講義は進むが、より具体的にVTR、スライドも文献として紹介する。時に、甲南大学環境教育野外施設(広野グラウンド)に出て、米作り・野菜作り・ビオトープ観察・バードウォッチング等の環境教育活動をおこなうこともある。
準備学習	各授業で示されたテーマに関係する資料を準備しておく。
成績評価	テストないレポートと出席点
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然・社会・精神環境の自己生成とその展開 - 自己組織的システム論 -</li> <li>2. 生態学的心理学による環境認知論 - アフォーダンス論 -</li> <li>3. オートポイエーシス理論 - 内部観測をめぐって -</li> <li>4. 心の形成と治癒としてのビオトープづくりと箱庭療法</li> </ol>
教科書	谷口文章『環境教育の哲学 - 環境教育学序説 -』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
講義関連事項	「哲学思想基礎論」、「人間環境論」、「環境倫理学」、「環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ」、「国際環境教育ネットワーク」、「国内環境教育ネットワーク」
担当者から一言	心の環境汚染が、自然や社会の環境を破壊してきたと思います。このことをいっしょに考えましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14022
-------	-------



授業科目名	<b>環境学基礎論Ⅱ(後)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜1限
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	<p>人間の環境は、身体と行動を介して自然環境、社会環境、心の環境が成立すると考えられる。それらの環境は、人間とは無関係に成立しているのではなく、人間と相互作用することで自己形成される。</p> <p>「自然環境」では、人間が適度に関与することで生態系が維持されている。例えば、森林の保全や農耕によって自然環境は健全に循環する。「社会環境」では、経済活動など人間の関与が大きい。そしてその社会現象も、自己組織的にシステムが出来上がる。例えば、商品の価格も市場において自己組織的に決定される。</p> <p>「心の環境」では、いうまでもなく人間自身の問題であり、それは“心のあり方”が中心となる。例えば、親子関係において、神経質の親は神経質な子どもを育てることになり、その子の心は母親のそのような性格を内化して自己形成されることになる。</p> <p>このように、自己組織のシステム論、生態学的心理学、環境教育学などから主体と客体が“複雑に”相互作用することによって自己形成される「人間の多様な環境」を環境学の観点から考察していく。</p> <p>環境学基礎論Ⅱでは、講義構成の3・4を中心に検討する。</p>
到達目標	環境意識の高揚とともに、それを理論化できるようにする。
講義方法	ノートを中心に講義は進むが、より具体的にVTR、スライドも文献として紹介する。時に、甲南大学環境教育野外施設(広野グラウンド)に出て、米作り・野菜作り・ビオトープ観察・バードウォッチング等の環境教育活動をおこなうこともある。
準備学習	環境学基礎論Ⅰで集めた資料をⅡで応用できるように準備する。
成績評価	テストないしレポートと出席点
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然・社会・精神環境の自己生成とその展開 - 自己組織的システム論 -</li> <li>2. 生態学的心理学による環境認知論 - アフォーダンス論 -</li> <li>3. オートポイエーシス理論 - 内部観測をめぐって -</li> <li>4. 心の形成と治癒としてのビオトープづくりと箱庭療法</li> </ol>
教科書	谷口文章『環境教育の哲学 - 環境教育学序説 -』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
講義関連事項	哲学思想基礎論／人間環境論／環境倫理学／環境教育の実践Ⅰ・Ⅱ／国際環境教育ネットワーク／国内環境教育ネットワーク

担当者から一言	心の環境汚染が、自然や社会の環境を破壊してきたと思います。このことをいっしょに考えましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14046		
授業科目名	<b>環境教育学(集中)</b>		
担当者名	ショウ ラジブ(ショウ ラジブ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	<p>持続的な開発の中心には、人間の安全保障と環境のバランスが必要であり、これには、環境マネジメント、持続可能な開発、災害の軽減、予防の計画のより一層の向上が不可欠である。それゆえ、開発、環境、防災のマネジメントは連結しているといえる。開発ラーニングとは、さまざまな関係者(stakeholder)の教育プロセスであり、それは、現場から学ぶことが非常に重要である。政府機関、非政府機関、専門家、国連を含めた国際機関の役目を定義し、特徴付けることが、開発ラーニングの焦点となる。そして、環境・防災教育は、ラーニング・エクササイズ重要な要素となる。</p> <p>コースの目的は、特に環境・防災教育に焦点をあて、開発ラーニングの基本概念、アジア各国でのプロジェクト・マネジメントの成功事例について講義する。プロジェクト・マネジメントの事例は、現場での豊富な経験をふまえた、ラーニングプロセスである。学生は、地球規模で考え、地域で行動することを学ぶ。</p>
-------	--

到達目標	環境・防災教育のセオリーと実践のギャップを埋めること。
講義方法	集中講義
準備学習	環境と防災に関する基礎知識
成績評価	下記は、本コースの単位を取得する必要事項である。 - オリエンテーションの参加、アンケートの回答 - 講義への積極的な参加(出席) - グループディスカッションへの積極的な参加 - 開発ラーニングに関するレポート英語で1ページ(講義最終日に提出)
講義構成	3部に分かれた14回の講義を行う。 - 第1部:開発ラーニング/環境・防災教育の概要 理論的背景、トピックと課題の概要説明、一般理論などについて講義する。  - Part 2: 各国の実例 日本国内外の現地での実例を紹介し、それぞれの成功事例を分析する。  - Part 3:参加型ラーニング:エクササイズ 実生活における基本的な問題へ取り組み、議論を通し、各学生及びグループの考えを刺激し高める。
教科書	なし
参考書・資料	講義時に随時知らせる。
講義関連事項	なし
ホームページタイトル	IEDM Website
URL	<a href="http://www.iedm.ges.kyoto-u.ac.jp/">http://www.iedm.ges.kyoto-u.ac.jp/</a>

授業コード	14047		
授業科目名	<b>環境・芸術文化論(後)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、川田都樹子(カワタ トキコ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
オフィスアワー	担当教員の授業の前後1時間		

講義の内容	「環境」というと環境問題を想いおこすが、本来、環境は生命をとりまく空間であり、すべての生命が快適に生きていく身の周りの空間のことである。したがってこの講義では、環境問題を中心とするのではなく、環境の創造、またそれを精神的に支える芸術文化論の視座から、環境・芸術文化論を展開したく考えている。
到達目標	自然観、都市公園・里山の景観、芸術に対する美的感性などに対する覚醒。
講義方法	4人の講師がそれぞれのテーマで講義をするが、ノート、パワーポイントなどによる。
準備学習	4部のテーマごとに課題があるので、それに沿った内容を準備しておくこと。
成績評価	レポート
講義構成	第1部. 環境教育と環境創造 01. オリエンテーション(谷口) 02. 環境教育から見た環境創造(谷口) 第2部. 環境創造の事例と方法 03. 都市環境と緑地・里山(戸田) 04. 都市ビオトープー環境創造ー(戸田) 05. 学校ビオトープー環境創造ー(戸田) 第3部. 環境と芸術 06. 「環境芸術」における「環境」とは?(川田) 07. 「環境芸術」のはじまり(川田) 08. 「ミニマル・アート」から「環境」へ(川田) 09. 自然環境と「アース・ワーク」(川田) 10. 都市環境と「パブリック・アート」(川田)

	第4部. 自然・風景・文化論 11. 自然美の普遍性と多様性(西) 12. 風景と文化的アイデンティティ(西) 13. アジア的自然観の再検討(西) 14. 日本的自然観の再検討(西) 15. まとめ 21世紀の環境創造と芸術文化論(谷口)
教科書	その都度、指示。
参考書・資料	その都度、指示。

担当者から一言	現代においてこそ、創造的な環境を知りましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14031		
授業科目名	<b>芸術思想史(前)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)		

講義の内容	芸術を理論的、歴史的に論じるための入門講義。
到達目標	映画や音楽などの作品経験の中で自分が個人として感じたことを、客観的な言葉に置き換え、さらにそれをより広い視野の中で考察していくために必要な基礎概念や理論的枠組みを学習する。
講義方法	各回ごとに一つのトピックを提示し、なるべく実際の作品を体験しながら、自らの感性を知識や理論と関連づける試みを行う。なお、授業はしばしば全員でのディスカッションのかたちをとる。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	平常点によるものとする。なお、受講者は、積極的な発言をはじめとする参加によって評価されることをあらかじめ了解されたい。
講義構成	おおむね以下のような内容を予定している。 (1)そもそも芸術とは何なのか (2)ポピュラーカルチャー vs. ハイカルチャー (3)解釈は人それぞれである方がよいか (4)美しく描かれた汚物と醜く描かれた美人 (5)作品が歴史的であるとはどういうことか (6)批評の意義と限界
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書については、講義のなかで適宜指示・紹介する。資料はプリントを配布する。
講義関連事項	平素から映画館やギャラリー、劇場、などに足を運んで、少しでも多くの作品に触れる機会を持つようにしてください。

担当者から一言	入門講義です。気楽に参加してください。
---------	---------------------

授業コード	14059		
授業科目名	<b>芸術療法(前)</b>		
担当者名	内藤あかね(ナイトウ アカネ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	原則として授業のあと。		

講義の内容	この講義では、芸術療法arts therapyの中でも特に絵画療法art therapy(以下、アートセラピー)を扱います。高
-------	---

	<p>名な米国のアートセラピストであるJudith Rubinは、アートセラピーを学ぶにはまずアートとセラピーについて学ばなければいけないと言います。今期は、アートについて知るために絵本をいくつか紹介し、子どもがどのようにアートの世界へ開かれていくかを考えます。また、アートセラピーの現場で使われる画材についても学びます。セラピーにかんしては、受講者が心理療法の基礎をすでに学んでいることを前提に必要な知識を扱います。そして、アートセラピーで行われる技法を講義中の実習を通して体験します。</p>
到達目標	<p>受講者が心理療法の一方法論としてアートセラピーにかんする基礎知識を得て、その可能性を考えられるようになる。実技を体験することにより、受講者自身の自己理解が深まる。</p>
講義方法	<p>主として講義形式ですが、実習を数回行う予定。他、アートセラピーを紹介するDVD(英語版もあり)を見る機会も含める予定です。</p>
準備学習	<p>臨床心理学・心理療法の基礎知識を必要とするので、事前に勉強しておくこと。講義資料や講義中に紹介するアートセラピーにかんする文献を受講者が進んで読むこと。</p>
成績評価	<p>講義中の小レポート、実習レポート、および期末レポート。期末レポートの提出だけでは単位取得できません。</p>
講義構成	<p>I. イントロダクション アートセラピー(芸術療法)のセッションでは何をするのか？ II. アートを知る ①絵本—アート—子ども ②画材を知る III. セラピーを知る ①心理療法の基礎概念 ②心理療法の媒体としての言語とアート IV. アートセラピーを知る ①アートセラピーとは何か ②アートセラピーの技法を体験する</p>
教科書	なし
参考書・資料	適宜配布します。

担当者から一言	<p>この講義を受講する人は、あらかじめ深層心理学や心理療法の基礎知識が必要です。また、講義中に描画行為(実習)を通して自分を表出・表現したり、英語の資料を使用するDVDを見たりするので、これらのことに抵抗のある人は向きません。講義中に提出するレポート類を評価対象として重視するので、出席が大事になります。</p>
---------	---

授業コード	14042		
授業科目名	<b>言語表現研究(前)</b>		
担当者名	浅黄 斑(アサギ マダラ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	<p>自分の言いたいことを分かってほしい。つきつめるところ、これが言語表現の基本です。わたしたちが日本という国で生活している以上、日本語での表現力を磨かなければなりません。友人や仲間たちとうまくコミュニケーションができて、その表現力では実社会に通用しないことが多々あります。</p> <p>仮に上司に報告をするという行為ひとつをとってみても、口頭で伝える場合と文書で伝える場合がありますし、上司の年齢(世代)はまちまちです。</p> <p>それで、いろんな世代に理解をさせる表現力は、今も昔も、それぞれの時代を生き延びるための、重要なツールなのです。</p> <p>本講座は、改めて日本語というものの特徴を知り、その知識を深めることによって、日本語の表現力を高めることを目的としています。</p> <p>まずは日本語の秘密を織りまぜながら、日本語が〈謎かけ〉や〈ことば遊び〉にまで発展した、日本のルネッサンスと呼ばれる江戸・元禄時代にまでさかのぼって、あなたたちの表現力を高める一助になりたい、と考えています。</p>
到達目標	<p>1 言葉づかいをおろそかにしない力を蓄える。 (言葉の誤った使用法や、ワープロ文書での誤変換などを防ぐ力の養成)</p> <p>2 雑学的な知識を得ることによって、日本語に興味を持ち、さまざまな表現法があることを理解する。</p>
講義方法	<p>必要な資料は、その都度プリントで渡しますが、復習のために、それ以前の講義のプリントに戻ることが、しばしばあります。そのためプリントはファイリングして講座に持ち込んでください。</p>

準備学習	プリントの予習、および復習。
成績評価	出席点70% レポート点30% 8回以上授業に出席しなければ、成績を評価しない。
講義構成	第一回 オリエンテーション  オリエンテーション時に構成概要を説明する。  ○授業内容 1 日本語概論 2 日本語の複合性。孤立性 3 日本語の発音 4 日本語の表記 5 ことば遊び 6 日本語の文法 7 日本人の表現
教科書	不要。 配布プリントによる。

担当者から一言	現役のプロ作家です。著書、テレビドラマ原作多数。 十年ほどミステリーを書き、それ以降は時代小説に軸足を移しました。 ときには脱線して、業界の舞台裏などに話が及ぶかもしれません。
---------	--

授業コード	14011		
授業科目名	<b>言語論(前)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	「言語とは何か？」を根本的な次元で理解するために必要な考え方を取り上げ、それを吟味する。
到達目標	外国語の学習にも役立つ言語理解を確立する。
講義方法	講義形式で進める。
準備学習	特になし。
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	1. ソシユールと恣意性の概念。 2. 生成文法の基礎と、言語能力の概念。 3. 精神分析と言語的社会性の問い。 4. 言語行為の概念と性差の問い。
教科書	なし。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14032		
授業科目名	<b>現代芸術論I(芸術論I)(前)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	月・金曜日の4時半以降(まず授業後に声をかけて下さい。)		

講義の内容	第二次世界大戦後、20世紀後半以後の現代芸術は、一見、難解なものが多く、またその多様さゆえにカオス
-------	---

	<p>的状況であったように見えがちである。互いに無関係な「～イズム」や「～アート」が無数に出現したかのように思えるのだ。しかし、多様な流派や新しいカテゴリーも、その時々活躍した美術批評家たちの言説と思想を読み解くことで容易に理解できるだろう。</p> <p>とりわけ、戦後のアメリカの美術界は「批評家先導型」であったとさえ言われるほど、同時代の美術批評の言説が大きな役割を担った。</p> <p>本講義では、アメリカ美術批評の言説を読み解きながら現代芸術の流れを理解するとともに、それが同時代の社会の動きや哲学思想といかに深く関わっていたかを考察する。</p> <p>まず、ヨーロッパのモダン・アートからアメリカの現代芸術への移行を概説し、その後、美術批評の言説をたどりつつ、主に1930年代から1960年代までのアート・シーンの流れを把握する。また、それぞれの言説が立脚点とする哲学や思想、時代背景を探っていく。</p>
到達目標	批評の言説を読み解くことで現代芸術を理解し、そこから各自が問題点や関心事を見つけ出して思考を深めていくことを目標とする。
講義方法	PCプロジェクター、ビデオなど視覚資料を講義に使用。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、現代芸術の作品や作家に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝60：40。
講義構成	<p>講義で扱う批評家／キーワード</p> <p>序：戦前のアメリカ美術界とヨーロッパ美術界の関係</p> <p>1：ハンス・ホフマン／抽象絵画、セザンヌ受容、プッシュ・アンド・プル理論</p> <p>2：クレメント・グリーンバーグ／純粋還元、モダニズム、フォーマリズム、カント美学、ヴェルフリン、様式史</p> <p>3：ハロルド・ローゼンバーグ／抽象表現主義、アクション・ペインティング、サルトル、実存主義、演劇論</p> <p>4：レオ・スタインバーグ／ネオ・ダダイズム、異種混交、水平性・垂直性、ポスト・モダニズム</p>
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。
参考書・資料	<p>『アートを学ぼう INVITATION TO ART THEORY』、岡林洋責任監修、ランダムハウス講談社、2009年。</p> <p>『批評の現在』、懐徳堂記念会編、和泉書院、1999年。</p> <p>『芸術の楽しみ・やさしい芸術学』原田平作・神林恒道編、晃洋書房、1996年。</p> <p>『芸術学ハンドブック』神林恒道・潮江宏三・島本流編、勁草書房、1989年。</p> <p>その他、参考資料として授業中にもプリントを配付する。</p>
講義関連事項	「美術史Ⅰ」、広域副専攻「芸術史」「現代の芸術」
担当者から一言	「流れ」を概観する講義なので、連続して受講すること。 シラバスの内容は、授業の進行状況によって変動する場合がある。
その他	プロジェクターでの画像映写時は部屋を暗くするので、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意することが望ましい。

授業コード	14033		
授業科目名	<b>現代芸術論Ⅱ(芸術論Ⅱ)(後)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	水曜日13時～15時(まず授業終了時に声をかけてください)		
講義の内容	<p>——1960年代～1970年代の芸術と理論——</p> <p>主に1960年代～1970年代の現代芸術を概観し、それを支えた芸術理論を紹介しながら、「モダニズム」が終焉したと言われる時代のアート・シーンの動向を考察する。また、それらと深く関わっていた美術批評や美学・芸術学の言説を紹介し、それぞれの時代背景について考えていこうと思う。</p>		
到達目標	前世紀中葉～後半の時代思潮と、当時のアート・シーンとの密接な関係を把握すること。		

講義方法	PCプロジェクター、ビデオ、書画カメラなど視覚資料を使用する。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、現代芸術の作品や作家に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」＝ 60：40。
講義構成	・予備知識として——1910年代・1920年代、ダダイズム。 ・ハプニング(A.カプロウなど)とJ.デューイ『経験としての芸術』 ・ポップ・アート(A.ウォーホル、R.リキテンシュタインなど)と、 A.C.ダントー「芸術世界」『プリロ・ボックスを超えて』 ・ミニマル・アート(R.モリス、D.ジャッドなど)と、 M.フリード「芸術と物体性」・メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』 ・コンセプチュアル・アート(J.コッス「哲学以後の芸術」)と、 ヴィトゲンシュタイン『論理哲学論考』
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。
参考書・資料	『アートを学ぼう INVITATION TO ART THEORY』、岡林洋責任監修、ランダムハウス講談社、2009年。 『批評の現在』、懐徳堂記念会編、和泉書院、1999年。 その他、参考資料として授業中にもプリントを配付する。
講義関連事項	「現代芸術論Ⅰ」の続編というべき内容なので、是非、「Ⅰ」を履修してから受講してほしい。 授業の進行状況にあわせて、随時シラバス内容が変更になる可能性がある。その必要が生じた時には、授業内で告知するので予めご了承いただきたい。

担当者から一言	特にプロジェクター等使用中の入室・退室は禁止する(明かりが入るとスクリーンが見づらいので)。
その他	プロジェクター使用時は部屋を暗くするので、教室設備によっては、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意する必要があるかもしれない。初回授業時に教室設備を確認したうえで、改めて指示する。

授業コード	14020		
授業科目名	<b>現代思想(前)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜日16:30分以降		

講義の内容	近代国民国家の要である「主権」の概念を、ヨーロッパにおけるその歴史を吟味しつつ、われわれが生きている社会にとっての問題点を探る。
到達目標	暴力に満ちた現代世界の理解を深める。
講義方法	古典的講義形式で進める。
準備学習	その都度指示する。
成績評価	学期末の試験で評価する。
講義構成	1. 日本国憲法と国民概念. 憲法前文のレトリック、「われわれ」とは誰か? 2. 国民主権と国家主権. 3. ヨーロッパにおける王権とキリスト教. 4. 政治神学とは何か. 5. 戦争と国際機関と国際法の変遷. 6. テロリズムの戦争概念への影響.
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14051
-------	-------

授業科目名	<b>行動科学(後)</b>		
担当者名	一言英文(ヒトコト ヒデフミ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	私たちは普段、笑い、食べ、話し、考え、悩みながら毎日を過ごします。人間は、さまざまな行動をする生き物といえるでしょう。行動科学とは、人の行動を科学的にとらえることによって人間を理解しようとする研究を行っています。人の行動は多様であり、社会がますます複雑になる現代において、人の行動に潜む法則を理解するはさまざまなことに応用できる知識となっています。本講義では、学習心理学や社会心理学、感情心理学などに触れながら、人の行動の法則を理解することを目的としています。
到達目標	講義内容を参照すること。初回講義で概要を説明します。
講義方法	パワーポイントと配布資料
準備学習	適宜指示します。
成績評価	定期試験(80%)と、時々行う課題(20%)で評価します。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行動科学について&amp;行動の生物学的基礎</li> <li>2. 行動の生物学的基礎</li> <li>3. 学習:古典的条件づけ</li> <li>4. 学習:オペラント条件づけ</li> <li>5. 感情:心理学における感情</li> <li>6. 感情:個々の感情について</li> <li>7. ストレスと健康</li> <li>8. 動機づけ</li> <li>9. 自己</li> <li>10. 性格</li> <li>11. 状況</li> <li>12. 社会的認知</li> <li>13. 文化</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>
教科書	特になし
参考書・資料	授業のテーマごとに資料を配布する。 参考書: 心理学の基礎 今田寛ほか(培風館)、心理学の基礎 加藤司(樹村房)、社会心理学 藤原武弘(晃洋書房)

授業コード	14049		
授業科目名	<b>国際環境教育ネットワーク(前)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、シュレスタ(シュレスタ マノジュ L.), 西 欣也(ニシ キンヤ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。そのため、本講義においては、グローバルな視野から海外の環境情報や環境教育の現状について知るために、テレビ会議システムを利用し、ラジャバト=プラナコーン大学(タイ)、北京大学(中国)、マラヤ大学(マレーシア)、環境省、国土交通省等と甲南大学を結び、リアルタイムのe-Learning(遠隔授業)を行う。それぞれの大学や機関はゲストとして、メッセージや情報を送ってもらう予定である。海外との講義は英語で行われるが、本学の学生は日本語でのコミュニケーションでもよい。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	国際的な環境教育の情報を知り、国際人としての感覚を養う。
講義方法	インターネットを使用した遠隔講義
準備学習	できるだけ英会話を勉強しておくこと。
成績評価	レポートと出席点



講義構成	第1回 オリエンテーション:「本講義が目指すネットワーク」:担当者(谷口) 第2回 環境省からのメッセージと国際環境政策:担当者(谷口, 環境省きんき環境館) 第3回 農業と環境:担当者(谷口・ゲスト) 第4回 タイにおける地球温暖化活動:担当者(谷口, チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第5回 地球環境問題とネパールの環境教育:担当者(シュレスタ) 第6回 タイの農業と環境:担当者(谷口, シリワット・スンダロトック:プラナコーン大学) 第7回 自然観の比較文化論:担当者(西) 第8回 国営あいな里山公園(「あいな里山」創造活動):担当者(谷口, 西, 国土交通省) 第9回 中国の環境教育の政策と北京大学の環境教育:担当者(谷口, 劉:北京大学) 第10回 タイ・中国・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口, チナタ・ナガシンハ:プラナコーン大学) 第11回 北海道と九州の国立公園の環境保全活動:担当者(谷口, 浅野:環境省) 第12回 マレーシア・日本の環境教育ネットワーク:担当者(谷口, バハルディン:マラヤ大学) 第13回 まとめー地球環境問題の解決に向けてー:担当者(谷口) 第14回 TV国際シンポジウム:担当者(谷口, ナガシンハ, 劉)
教科書	適宜紹介する
参考書・資料	その都度、配布
講義関連事項	環境関連の科目を修得しておくことが望ましい
担当者から一言	甲南大学が世界へと環境教育の情報を発信するフォーカル・ポイントの大学として本講義は展開されます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14048		
授業科目名	<b>国内環境教育ネットワーク(後)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、今井佐金吾(イマイ サキンゴ)、浅野能昭(アサノ ヨシアキ)、高阪 薫(タカサカ カオル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜1限 土曜2限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地球環境問題の解決のためには、「グローバルに考え、ローカルに活動する」ことが重要である。本講義においては、日本におけるローカルな活動を主として学ぶ。そのために、テレビ会議システムを使用し、宮城教育大学、広島修道大学、環境省、国土交通省等と甲南大学のネットワークを結び、リアルタイムでのe-Learning(遠隔授業)を行い、各大学や研究・行政機関で行なわれている環境教育について学ぶ。それぞれがゲストとしてメッセージや情報を送ってもらう予定である。なお、本講義は教職科目、学芸員科目にも充当できる。
到達目標	国内の環境教育の情報を知り、学外の環境教育の状況を把握する。
講義方法	通常講義と学外とのe-ラーニング講義。
準備学習	環境教育の基本的知識を、テーマごとに得ておくこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	第01回 オリエンテーション:本講義が目指すネットワーク:担当者(谷口) 第02回 環境省からのメッセージと国内における環境政策:担当者(谷口/環境省きんき環境館) 第03回 日本における林野政策と森林環境教育(谷口) 第04回 北海道・九州の国立公園におけるマネジメント:担当者(谷口/浅野) 第05回 地方行政における環境政策:担当者(谷口/西) 第06回 国営あいな里山公園(「あいな里山」復元活動):担当者(谷口/国土交通省) 第07回 大気汚染・ダイオキシン・環境ホルモン問題:担当者(谷口/今井:広修大) 第08回 広島修道大学における環境教育の取組:担当者(谷口/今井:広修大) 第09回 環境問題と化学物質(今井:広修大) 第10回 宮城教育大学における環境教育のアーカイブ化の展開:担当者(谷口/宮教大) 第11回 コメと環境文学:担当者(高阪) 第12回 沖縄の環境にみる伝統文化:担当者(高阪) 第13回 まとめⅠ(国際・国内環境教育ネットワーク):担当者(谷口) 第14回 まとめⅡ(学生との討論):担当者(谷口)
教科書	適宜、紹介する

講義関連事項	国際環境教育ネットワーク／環境学基礎論
担当者から一言	地域連携の科目でもあり、甲南大学からe-Learningによって全国に発信したいと予定しています。
ホームページタイトル	{甲南大学文学部 谷口研究室,http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/}
URL	http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/

授業コード	14018		
授業科目名	<b>サウンド・スケープ論 (集中)</b>		
担当者名	小林昌廣(コバヤシ マサヒロ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	われわれの住む世界に満ちている音というものはいかにして生成され、また消費され、そして消滅してゆくのか、音(サウンド)の「生と死」を文化人類学、哲学、芸術学、生理学など広範な領域からトレースする。 音を能動／受動、自然／人工、調和／不協和、可聴／難聴といった二項対立から解放し、音のあるべき姿へと立ち戻らせる方法を模索する。
到達目標	世の中に散見されるサウンドスケープ論を超えるサウンド観をもつこと。
講義方法	講義形式だがパワーポイントやDVDなども使用する。
準備学習	授業に出る前に世界に対して耳を欻(そばだ)てておくこと。
成績評価	毎回の小レポートと講義最終日のレポート、出席
講義構成	1 映画の音～サイレントからトーキーへ 2 文芸(小説、詩、俳句)のなかの音～想像と創造 3 漫画・コミックスのなかの音～オノマトペを中心に 4 舞台における音①～古典芸能(歌舞伎、能楽、文楽) 5 舞台における音②～セリフ、効果音、出囃子など 6 音の歴史①～録音再生メディアの歴史 7 音の歴史②～哲学と音楽史 8 ランドスケープとサウンドスケープ～建築と音響 9 音と医学①～聴覚生理学 10 音と医学②～難聴論・幻聴論 11 音と医学③～補聴器の歴史 12 音楽療法論①～芸術療法のなかの音楽療法 13 音楽療法論②～歴史・文化・技術 14 サウンド論～坂本龍一の場合 15 サウンド論～武満徹の場合
教科書	特になし
参考書・資料	講義中に指示する。
講義関連事項	「身体表現研究」はより拡張された内容を扱っている。

担当者から一言	講義初日にやや長めのアンケートを書いてもらいますので必ず出席してください。
---------	---------------------------------------

授業コード	14044		
授業科目名	<b>作品研究 (後)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
特記事項	英語英米文学科「文学探訪 I b ②」と同時開講とする		
オフィスアワー	金曜16:30分以降		

講義の内容	ハーマン・メルヴィルの短編小説『バートルビー』の詳細な読解を通じて、現代社会がはらむ問題を照射す
-------	--

	る。
到達目標	短編ながら容易ではないテキストを通じて「読む」行為を実体験する。
講義方法	本講義は、英文科の講義、秋元文孝「文学探訪」との合同講義であり、各回二人の教員が交代で講義をし、後に質疑応答を行なう。
準備学習	講義第一回までに、日本語訳を読んでおくこと。
成績評価	年度末の試験で評価する。
講義構成	1. 肯定でも否定でもなく。I would prefer not to. 2. 精神分析と「抵抗」の概念。 3. 絶対的抵抗と貨幣の場所。 4. 壁とウォール・ストリート。 5. Dead Letters.
教科書	<a href="http://www.enotes.com/bartleby-scrivener-text/bartleby-scrivener">http://www.enotes.com/bartleby-scrivener-text/bartleby-scrivener</a> から英語原文を、 <a href="http://www.canpus.u-air.ac.jp/~gaikokugo/meisaku07/eBook/bartleby_h.pdf">http://www.canpus.u-air.ac.jp/~gaikokugo/meisaku07/eBook/bartleby_h.pdf</a> から、柴田元幸訳を、 いずれも pdf ファイルでダウンロードすること。

授業コード	14038		
授業科目名	<b>作品表現研究I(作品表現研究) (前)</b>		
担当者名	森 年恵(モリ トシエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	戦前から現代にいたるまでの日本映画を、特に戦前戦後期に焦点を当てて観る。スクリーンに映る過去の日本の風俗や流行、世相は、過去のものでありながら、現代の私たちの生きかたや心理を映す鏡でもある。したがって、取り上げられる映画について考えることは、現在の私たちを理解する作業でもある。同時に、日本映画の巨匠と呼ばれる監督を中心に、黄金期の日本映画史を学習する機会ともする。
到達目標	受講生それぞれが(日本)映画への関心を深めること。
講義方法	講義による。
準備学習	素材とする映画を前もって見て小レポートを準備する。なお、映画鑑賞の機会は提供する。
成績評価	小レポートの提出および授業中の討論への参加。8割以上の出席を必要とする。
講義構成	・映画を語るとは？ 過去へのオマージュ 堤幸彦『20世紀少年』(2008) ・サラリーマンの悲哀は過去のもの？ 小津安二郎『生まれてはみたけれど』(1932) ・モダンガールの抵抗 溝口健二『浪華悲歌』(1936) ・戦後復興、輸出商品としての映画 黒澤明『羅生門』(1950) ・原水爆と日米関係 本多猪四郎『ゴジラ』vs.『GODZILLA』(1954) ・赤線の廃止と女性の結末 溝口健二『噂の女』(1954) ・戦争に引き裂かれた個人 成瀬巳喜男『浮雲』(1955) ・1968年に何があったか？ 大島渚『絞死刑』(1968) ・アニメは日本を救うか？ 大友克洋『AKIRA』(1988)
教科書	なし。
参考書・資料	『JAPANESE CINEMA: texts and contexts』Alastair Phillips & Julian Stringer(ed.) Routledge 『トラウマ映画の心理学』森茂起・森年恵 新水社 『日本映画史100年』四方田犬彦 集英社新書 『日本映画史』1-4巻、佐藤忠夫 岩波書店

担当者から一言	映画とともに自分自身もみつめてみましょう。
---------	-----------------------

授業コード	14045
-------	-------

授業科目名	<b>ジェンダー論 (後)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日 授業終了後、随時		

講義の内容	ジェンダーという概念で、現代社会の諸現象を眺めなおすとどんなことが見えてくるかを学ぶことが、この講義の目的である。
到達目標	ジェンダー概念を深く理解する。
講義方法	①講義を聴く、②ゲストの講演を聴く、あるいはビデオを見る、③皆で討論する、の三部形式で行う。まず講義で問題提起をおこない、翌週それに関するゲストの話や、あるいはビデオを見る。3週目には2週にわたる問題について、それぞれが書いてきたレポートを小グループで討論しあう。つまり原則として1つのトピックスを3週かけて扱う。
準備学習	指定された参考文献を必ず読み、自分の意見をまとめてくること。
成績評価	試験(40%)、4回にわたるレポート(40%)、そして授業中の発表態度(20%)の3点を評価する。
講義構成	以下の4つのトピックスを予定している。具体的日程は最初の授業のときに知らせる。  1) フェミニズムの歴史と現代的意味(2回) (ジェンダーという言葉の歴史を考える)  2)ジェンダーの今日的意味(3回) (ジェンダーと経済、ジェンダーとライフサイクル)  2)男性とは何か(3回) (今生きにくいといわれる男性のジェンダーのありかたについて、ポルノを通じて考える)  3)トランスジェンダーの今日(3回) (トランスジェンダーを生きるゲストを呼んでディスカッション)  4)インターセックスとは何か(3回) (インターセックスを生きるゲストを呼んでディスカッション)  5)まとめのためのディスカッション(1回)
教科書	プリントを都度配布する。
参考書・資料	都度指示する。
担当者から一言	参加型の授業なので、自分で授業を創る意気込みで参加してください。

授業コード	14019		
授業科目名	<b>視覚メディア表現論 (前)</b>		
担当者名	椎原 保(シイハラ タモツ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	特に設定していないので、授業が個別に予約してください。		

講義の内容	ここでは、主に写真についての研究をします。 現代は、視覚メディアの時代です。 視覚メディアの特性を知り、メディアリテラシーについても学びます。  芸術という海を泳ぐこと 直感的に何らかのリアルな世界を感じてもらえたらと思います。 イメージの世界を探検しましょう。 自分の力で、作品を見て理解する能力を鍛えましょう。
-------	--

到達目標	写真、映像などのメディアによる表現の特性を理解すること 自分でメディアについて研究できる視点を見出せることなど なんでも興味をもてる感性を身につけること
講義方法	講義では、カメラ機材、写真、写真集、などの現物を用いた講義展開で授業をすすめます。 履修人数によりますが、ディスカッションなどのゼミ形式の授業展開もしたいと考えています。 視覚メディアについてなんらかの問題意識がもてるように、ここではある一つの局面を紹介するような方法で授業を進めたいと考えています。
準備学習	視覚メディアについて興味をもつこと 映像や写真の現物に触れること
成績評価	授業への参加の度合いで評価 授業内での小レポートの提出による評価 前期授業内でのレポート提出による評価 授業最後にセルフポートレート提出してもらい、その写真の表現の違いについて述べてもらいます。 自分で見出した視点で、メディアについてのレポートを授業内で提出していただきます。 試験は行いません。すべて授業内での評価ですので、欠席されるとそのまま評価に反映されますので、ご注意ください。
講義構成	1,「メディアとしての写真」について 2次元ペーパーカメラを使って記憶に残す。 (見ることについて。感覚について。) 2,「写真の技術」について カメラの構造、デジタルカメラとフィルムカメラの違い、 写真の現像処理、フィルム、光源、特殊写真処理 3,「ドキュメント」について ユージン・スミス、アンリ・カルティエ・ブレッソン、マグナム・フォト、4,「メイキング・フォト」(making photo)、「ステージド・フォト」(staged photo)、「コンストラクテッド・フォト」(constructed photo)について・・ 5,「リアリティと虚構」「事実と物語」について 澤田知子、ソフィ・カル、クラフト・エヴィング商会、レオ・レオーニ、 イリヤ・カバコフ 他、 6,「丹平写真倶楽部」 (写真作品、椎原治の現物の作品を見ていただきます。) 7,「クリエイティブな世界」について マン・レイ、今道子、森村泰昌、シンディ・シャーマン、やなぎみわ ベルナール。フォコン他 8,「現代ドイツの写真家から」について ベッヒャー、アンドレアス・グルスキー、トーマス・シュトゥルト、 トーマス・ルフ、他 9,「写真の発明とその後」「肖像写真」について アッシュとザンダー、ダイアン・アーバス、ホンマタカシ、 10,「現代美術と写真」について ボルタンスキー、折元立身、杉本博司、その他、中平卓馬、マン・レイ、 畠山直哉など予定 11,「セルフポートレート」について 12,鏡ドライブ(ワークショップ)  ※)順番が入れ替わることもあります。
教科書	特になし。
参考書・資料	適宜、プリントを配布します。 授業内で紹介します。
講義関連事項	イメージ表現研究 イメージ論 イメージトレーニング 現代芸術論
担当者から一言	芸術について…… 書物や映像のメディアだけで学ぶのではなく、リアルな作品からの経験が重要だと思います。そういう意味で、学外へ作品を見に行くことも考えています。  それともう一つ。美しいものばかりとは限りません。また、いくら自分は写真を好きだと思っても、好きな写真ばかりともいえません。

その他	作品に限らず、できるだけ色々な意味で現物をみてもらい、体験から理解してもらえそうな授業にしたいと思っています。 ワークショップ的な展開も予定しています。
-----	---

授業コード	14034		
授業科目名	<b>宗教論</b>		
担当者名	吉永進一(ヨシナガ シンイチ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)

講義の内容	宗教の有無を問われると、「特に無い」と答える人が多いでしょう。それは日本社会の特徴であって、世界全体を見渡せば、むしろ宗教が一大勢力になっている社会も多いのです。この講義では前半に世界宗教と日本宗教の見取り図を学び、後半はテキストを頼りに現代社会とのかかわりを考えていきたいと思います。
到達目標	多様な価値観の理解、宗教の社会的、心理的機能の理解
講義方法	講義形式
準備学習	世界史、日本史
成績評価	知識問題の試験50%、論述問題50%
講義構成	1: ガイダンス、宗教と宗教学 2: 先住民の宗教、古代宗教 3: ユダヤ教 4: キリスト教 5: キリスト教(アメリカ) 6: イスラーム 7: イスラーム 8: アジアの宗教 9～11: 日本の宗教 11～12: 日本の近代宗教 13～14: 近代の心理療法宗教 15: ニューエイジ、スピリチュアリティ 16: 諸宗教の見取り図 17: 宗教における実践 18: 現代社会における宗教 19: 生命の循環と継承 20: 救いと癒しの現場 21: 生と死の意味を問う 22～まとめ
教科書	島藺、葛西、福嶋、藤原『宗教学キーワード』(有斐閣叢書)
参考書・資料	授業中に指示する

担当者から一言	好奇心と柔らかな心をもって授業に臨んでください。
---------	--------------------------

授業コード	14062		
授業科目名	<b>心身論研究(後)</b>		
担当者名	深尾篤嗣(フカオ アツシ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	まず心身医学の全般的知識(心身相関や心身症の概念、心身医学の基礎、身体科各領域における心身症の種類と病態、および心身医学的アプローチ)について講義した上で、講師の専門である内分泌・代謝系の心身症を例にして、心身医学・医療の実際(心身相関のエビデンス、症例を通じての病態の診立て、心理テストや心身医学的アプローチの用い方など)について講義する。精神医学とは異なる身体疾患を対象とした全人的医療学としての心身医学に対する理解を深めることを目的とする。
-------	---

到達目標	心療内科の実際や身体科各領域の心身症について知るとともに、心身医学・医療の理論、見立て、治療の基本を身につける。
講義方法	Power Pointおよび配布資料を主にするが、必要に応じて教科書、参考書関連の資料をOHPで写したり、板書しつつ講義する。
準備学習	特に必要ないが、各自が興味ある心身医学関連の本を読んでおくことが望ましい。中公新書の池見西次郎著「心療内科」「続・心療内科」などが適当である。
成績評価	出席率および学期末のレポート提出による。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身医学の歴史と現状(心身相関、心身症の定義、失感情症、失体感症など)</li> <li>2. 心身医学の基礎(ストレスの概念と歴史、ストレスと脳、情動と内分泌、アレルギー、消化器など)</li> <li>3. 身体科各領域(循環器系、消化器系、呼吸器・アレルギー系、神経・筋肉系、内分泌・代謝系)の心身症</li> <li>4. 慢性疼痛</li> <li>5. サイコオンコロジー</li> <li>6. スピリチュアリティと心身医学</li> <li>7. 心身医学的アプローチ(向精神薬、認知行動療法、精神分析、ブリーフセラピー、自律訓練法、プロセス指向心理学など)</li> <li>8. 心身医学・医療の実際—内分泌・代謝系心身症(甲状腺疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、摂食障害など)を例に</li> </ol>
教科書	『医療における心理行動科学的アプローチ——糖尿病／ホルモン疾患の患者と家族のために』(中井吉英:監修、内分泌糖尿病心理行動研究会:編、新曜社刊)
参考書・資料	『心身医学標準テキスト第3版』(久保千春:編、医学書院刊)
担当者から一言	心身医療を実践する診療科がいわゆる「心療内科」です。心療内科はよく精神科と混同されますが、その実態は身体疾患を対象とした全人的医療を実践する診療科であることを理解して欲しいと思います。
ホームページタイトル	内分泌糖尿病心理行動研究会、レインボードクターへの道
URL	<a href="http://www.nt-shinri-k.net/">http://www.nt-shinri-k.net/</a> <a href="http://blog.sq-life.jp/fukao/">http://blog.sq-life.jp/fukao/</a>

授業コード	14026		
授業科目名	<b>深層心理学I(前)</b>		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	深層心理について考察する。
到達目標	深層心理に関する基礎的・応用的知識を身につける。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	定期試験にて行う。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)Introduction/「無意識的なもの」について その特長と現れ 言語・振る舞い・しぐさ ビデオ「フラメンコ」</li> <li>2)本能行動と文化行動、意味づけとストーリーを生きること 現実と事実と真実はどう違うか、「違い」ワークシート 資料(1)</li> <li>3)視覚イメージと無意識的なもの ビデオ「鏡」(A.タルコフスキ) 「ざくろの色」(パラジャノフ) 盲点のワーク ワークシート 資料(2)</li> <li>4)音楽イメージと無意識的なもの 音楽ソフト M.Vetter(現代音楽)、Jegog(パリ音楽) V.Morrison(アメリカン・コンテンポラー)、Az Yet(同) Janequin(フランドル、ルネサンス)</li> <li>5)シャーマニズムと治癒 ビデオ「脳と心」 宮古島でのシャーマン養成 覚醒夢ワーク 閉眼での視覚イメージ・ワーク</li> <li>6)心と身体(1)</li> </ol>

	<p>心と身体 of 相互関係モデル、身体イメージと無意識的なもの</p> <p>7)心と身体(2) ビデオ「治療と心」から、ガンの終末期ケア</p> <p>8)自分という感覚 「自分」レジュメ 資料(3)</p> <p>9)宗教経験と無意識的なもの カルト、新・新宗教 資料(4)</p> <p>10)心理療法・カウンセリング 誰の、何を、どう、援助するか 資料(5)</p> <p>11)思春期心性とイノセンスと大人社会 資料(6) もらい子ファンタジと「裁き、評価する母」からの離脱</p> <p>12)アイデンティティ マイノリティ、サブ・カルチャーと所属感</p> <p>13)Securityの問題 Trana-GenderとTrans-Sexual, Gender Dysphoria(性別不快)と性の自認 異性装、同性愛、異性愛</p> <p>14)討論</p>
教科書	適宜指示する。

授業コード	14027		
授業科目名	<b>深層心理学II (後)</b>		
担当者名	羽下大信 (ハゲ ダイシン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	前期に引き続き、深層心理の知識について考察する。
到達目標	深層心理に関する基礎的・応用的知識を身につける。
講義方法	講義形式で行う。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	定期試験にて行う。
講義構成	<p>1)発達について(1) エリクソンの考え方 危機とライフサイクル論</p> <p>2)発達について(2) 思春期はどこから始まるか 少年少女期との対比で</p> <p>3)症状論(一) 症状を持つ能力について 何を、どこを病気と考えるか 症状未満/症状以上 資料(7)</p> <p>4)症状論(二) 分裂病について 夢を見ること/妄想を持つこと/空想すること 分裂病と心理療法あるいはコミュニティアプローチ</p> <p>5)症状論(三) 心身症・行動障害・ノイローゼと心理療法 事例1: 心臓神経症、事例2: 出社恐怖、事例3: 未定 資料(8)</p> <p>6)思春期に特異的な現れ(1) 拒食、過食・嘔吐、対人恐怖 ビデオ「心の扉を探して」拒食を続ける少女、その後</p> <p>7)思春期に特異的な現れ(2) 不登校 ビデオ「不登校」</p> <p>8)思春期に特異的な現れ(3) いじめ ビデオ「中学生日記」・卒業生からのメッセージ」</p> <p>9)依存の心理 アルコール・ギャンブル・買い物(カード)・人間関係・仕事 資料(9)</p> <p>10)家族 その構造の特長 他の人間関係との違い 虐待から見える親子・社会 ビデオ「PTSD」</p> <p>11)再び、心理療法(1) 心理療法とカウンセリングの違い、Cure/Care/Heal ビデオ「カウンセリングの実際」</p>



	<p>12)再び、心理療法(2) 発達の問題 病氣治療モデル VS 発達援助モデル ヨーロッパ型の治療モデルとアジアのhealing system ビデオ「スリランカの悪魔祓い」</p> <p>13)老年期 高齢化とライフ・ケア 資料(10) ホスピス ビデオ「ビハーラの活動」</p> <p>14)災害時ストレスとそのケア 被害者その後と自助グループ ビデオ 資料(11)</p>
教科書	適宜指示する。

授業コード	14043		
授業科目名	<b>身体表現研究 (前)</b>		
担当者名	小林昌廣(コバヤシ マサヒロ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	<p>おそらく歴史的には最も古く、確かな伝統を持ち続けながらも、芸術学においても批評においても後進的な位置づけしか与えられなかった&lt;身体表現&gt;を前面＝全面に押し出し、その現代性や可能性について考察する。本年度も引き続き、わが国の古典芸能における身体表現を中心に講義を展開する。「古典」たる芸能がなぜ「現在」の身体表現となり得ているのか、その秘密を探るのが目的である。 時間が余れば、日本映画における身体についても言及したい。</p>
到達目標	古典芸能の「敷居」の存在をできるだけ軽減して、身体表現としての現代性を理解すること。
講義方法	毎回資料を配布するが、講義と映像の二本立てで行なう。
準備学習	事前の準備はとくに必要ないが、できるだけ生の舞台を観ることが望ましい。
成績評価	レポート(講義の内容がきちんと反映されていることが評価のポイントとなる。講義最終日に回収)
講義構成	<p>扱うテーマ： performanceとperforming arts、その概念と歴史 古典芸能史から見た身体の歴史、または躰(しつけ)・所作の美学 歌舞伎舞踊と日本舞踊、あるいは身体言語とその文法 地唄舞(上方舞・京舞)、あるいは「文化」としての身体 人形浄瑠璃(文楽)、その「人間学」的構造と批評性 能楽(能・狂言)、特に「動十分心、動七分身」の身体論 暗黒舞踏と六十年代演劇、あるいは古典への嫉妬 孤独なパフォーマンス・アーツとしての落語 日本映画のなかの古典的身体とその運動性</p> <p>映像や詞章(歌詞)による作品鑑賞に加えて、同時代の批評文を読んで、「一回性」でしかない身体芸術を思想的に復元する。</p>
教科書	特になし。
参考書・資料	<p>身体表現全般に関しては： 小林昌廣『臨床する芸術学』(昭和堂)</p> <p>日本舞踊に関しては： 渡辺保『日本の舞踊』(岩波新書) 郡司正勝『おどりの美学』(演劇出版社) 武智鉄二『舞踊の芸』(東京書籍)</p> <p>その他は講義のなかで紹介する。</p>
講義関連事項	「身体論」(後期火2)は本講義の基礎的な性格をもっている。
担当者から一言	講義のなかだけでは限界がありますので、生の舞台、生の身体表現を積極的に観るようにしてください。国内(特に関西)での公演などについてはできるだけ紹介するようにします。

授業コード	14012		
授業科目名	身体論(後)		
担当者名	小林昌廣(コバヤシ マサヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	一人ひとりのもれなく所有しているにもかかわらず、従来は「精神」と「肉体」の混成体として抽象的にしか扱われていなかった「身体」を、＜医学／芸術／哲学＞のトライアングルの中心に据えることで、より具体的な身体、あるいは身につまされる身体について考える。
到達目標	自分の固有の身体についての認識を深めると同時に、他者の身体のありようについても関心をもつようにする。
講義方法	レジュメとパワーポイント(keynote)によって講義は進められ、それによって身体論的思考を熟成させてゆく。
準備学習	準備するものはとくになく、かけがえのない身体を教室に持参するのみである。
成績評価	レポート(とくに、レポートに講義の内容が反映されているかが評価のポイントとなる。講義最終日に回収)
講義構成	<p>主なテーマ＝病名論、病院論、病因論、健康論、闘病記論、身体変工論、医療人類学、美術解剖学、芸術生理学、他者論、老いの哲学、スピリチュアリティ論など。</p> <p>それらと平行して、自らの身体を思考するうえで必要となる哲学、芸術学、医学の基礎的な知見も紹介する。ただし、身体論はつねに「いま・ここ」性を強く帯びた領域ゆえ、扱うテーマが変更されることもある。</p>
教科書	特になし。
参考書・資料	授業中に指示するが、担当教員の著作としては以下の2冊を参照されたい： 『病い論の現在形』(青弓社) 『臨床する芸術学』(昭和堂)
講義関連事項	「身体表現研究」(前期火2限)は、本講義の派生的性格をもっている。

担当者から一言	ふだんから「身」の廻りの、身体に関わるコトバやアート、表現に敏感になっておいてください。また講義は猛烈な速度と膨大な情報量によって展開されるので、教室は「講義を聴く身体」を獲得するための鍛錬の場と捉えてください。
---------	--

授業コード	14009		
授業科目名	心理学基礎論		
担当者名	久松睦典(ヒサマツ ムツノリ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)

講義の内容	<p>私たちは日々、何かを見たり聞いたり感じたり、あるいは想像したり考えたりしながら暮らしています。何かを知覚し、思考する主体としての心は、普段はあまりに自明なものと感じられますが、ひとたび心そのものについて考え始めると、それは途端に捉えどころのないあやふやな現象に思えてきます。いったい心はどのように芽生え、世界を認識し、成長し、そして他者と交流するのでしょうか？</p> <p>心理学という学問は、このような人の心のはたらきについて科学的に研究しようとする学問分野です。身近で具体的な例を挙げながら、皆さんと一緒に心について考えていきたいと思えます。</p>
到達目標	<p>(1)近代心理学成立の歴史を理解する。</p> <p>(2)心理学の諸領域の理論を具体例を挙げて説明できる。</p> <p>(3)心理学研究法の基礎を理解する。</p> <p>といったことが、この講義の到達目標です。</p>
講義方法	講義形式で行います。必要に応じて、ビデオなどの資料を用います。また、講義中に簡単な実習を行ったり、小レポートを書いてもらうこともあります。
準備学習	テキストを読んで予習し、各回の講義で提示する例題に解答すること。
成績評価	<p>定期試験(60%)</p> <p>レポート等のホームワーク(20%)</p> <p>講義中の課題(20%)</p>
講義構成	<p>第1回 導入:心理学とは</p> <p>第2回 心の進化:脳・神経</p>

	第3回 近代心理学の誕生:魂から心へ 第4回 感覚機能:感じる 第5回 形と空間の知覚:見る 第6回 記憶と忘却 第7回 欲求と感情 第8回 古典的条件づけによる学習 第9回 オペラント条件づけによる学習 第10回 行動主義心理学、行動療法 第11回 発達:氏か育ちか 第12回 言葉の発達:言語とは 第13回 愛着と社会性の発達 第14回 思考の発達 第15回 試験(小テスト) 第16回 知能とは 第17回 児童期と自我体験 第18回 思春期・青年期とイニシエーション 第19回 老年期の心理 第20回 対人認知と態度 第21回 自己過程 第22回 集団と社会的相互作用 第23回 パーソナリティ 第24回 心理検査 第25回 心の深層:フロイトと精神分析理論 第26回 心の深層:夢とコンプレックス 第27回 ストレスと適応 第28回 秘密と心の病 第29回 心理療法 第30回 試験
教科書	藤岡新治、山上精次、金城辰夫編『図説 現代心理学入門』培風館、2006年
参考書・資料	講義中にその都度お伝えします。

授業コード	14054		
授業科目名	<b>心理学研究法(後)</b>		
担当者名	荻田純久(オギタ ヨシヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	心理学の研究論文を熟読したり、論文を執筆したりする際に必要な力を養成する。具体的には、SPSSを用いたデータ解析法、論文執筆時のルール(書式、表現など)といったテーマを扱う。この他に、研究を行う上で極めて重要な1)文献収集方法、2)集めた文献の整理・管理方法、3)科研費等の外部研究資金の獲得方法、4)様々な研究者育成事業などを紹介する。
到達目標	学会誌レベルの論文をある程度読むことができるようになること。卒業研究の時に自力でデータ解析ができるようになることを到達目標とする。
講義方法	心理学研究に関する講義およびパソコンを用いたデータ解析の演習を行う。
準備学習	本講義ではパソコンを頻繁に使用する。ワード、エクセルの基本操作は出来るようにしておくことが望ましい。またMY KONANを使ったプリント配布、レポート提出などがあるので、MY KONANを使いこなせるように練習しておくことが望ましい。
成績評価	受講態度(10%) 小テスト(何回か講義時間中に実施:60%) レポート課題(30%)
講義構成	1. はじめに 2. 心理学研究と統計学 (t検定、分散分析、カイ二乗検定、多変量解析、実験計画法、メタ分析など) 3. 論文の作成方法(データベースの利用方法、文献管理ソフトなど) 4. 科研費等の研究助成金とその獲得方法 5. 様々な研究者育成事業

教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書・資料	適宜紹介する。
担当者から一言	出来るだけ話をかみくだき、全学生が「しみじみ」理解できるように講義を進めていくつもりである。ただし、毎回の講義後に必ず復習を行うようにしてもらいたい。

授業コード	14068		
授業科目名	<b>心理学史II(後)</b>		
担当者名	福井義一(フクイ ヨシカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	我が国における心理学の歴史について、その導入期を中心として詳細に紹介する。特に、心理学と同時に輸入された催眠が、我が国のアカデミックな分野にどのように受容され、その後排斥されていったのか、それによって異常心理学や臨床心理学の分野の確立が、立ち後れていった事情について、詳細に検討する。
到達目標	我が国における心理学の受容の歴史を理解することができる。 心理学と催眠という観点から、当時の社会情勢を踏まえつつ、基礎と臨床分野の隔絶について、より詳細に理解することができる。
講義方法	主として講義方式による。
準備学習	特になし。
成績評価	試験と、複数回の小レポートによる。ただし、10回以上授業に出席しない場合は、成績を評価しない。
講義構成	おおむね以下のようなスケジュールで行うが、進み具合によって一部変更や省略があり得る。 1. オリエンテーション 2. 心理学の誕生 3. メスメリズムと催眠術の導入 催眠術の登場 ブームの背景 アカデミズムとの関係 催眠の変質 千里眼事件 霊術へ 4. 心理学を導入した学者達(1) 5. 心理学を導入した学者達(2) 6. 心理学を導入した学者達(3) 7. 中村古峯と変態心理学 8. 戦前、戦中、戦後の心理学 9. 現在の心理学へ
教科書	なし。
参考書・資料	『催眠術の日本近代』 一柳廣孝著 青弓社 『〈変態〉の時代』 菅野聡美著 講談社

授業コード	14053		
授業科目名	<b>心理学実習</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)、尾崎勝彦(オサキ カツヒコ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限 火曜4限 火曜5限)、後期(火曜3限 火曜4限 火曜5限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		
講義の内容	心理学の基礎的な研究方法を実習を通して学ぶ。統計法を理解しながら、実験、調査の方法を学び、心理学の		

	考え方・方法論・考察の仕方などを、体験的に理解することが目的である。
到達目標	心理学の基礎的な研究方法、統計的処理を伴う結果の分析方法、レポートの書き方を身につける。心理学の職域についての理解も深める。
講義方法	各テーマについて、講義、実習や討論、レポート作成を繰り返す参加型の授業である。詳しくは初回のオリエンテーションで説明するので、必ず出席すること。
準備学習	ほぼ毎回レポートが課せられるので、期日内にレポートを仕上げながら、毎回の授業に臨むこと。授業前に準備学習が必要な場合は、その授業に先立つ授業時などに指示する。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。ほぼ毎回レポートが課される。
講義構成	第1回の授業で年間予定の詳細を説明する。仮登録も行なうので、受講を希望するものは必ず参加すること。将来、心理臨床領域で学ぶことを希望する学生は、この実習を受講することが望ましい。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。
教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。特に1年次の「心理学基礎論」2年次の「心理学統計基礎論」「心理テストⅠ」と密接に結びついている。

授業コード	14050		
授業科目名	<b>心理学統計基礎論(前)</b>		
担当者名	荻田純久(オギタ ヨシヒサ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	土曜2限

講義の内容	心理学において統計学の基礎知識は必要不可欠である。様々な論文を読む際に統計学の知識がなければ、何が書かれているか理解することができない場合がある。心理臨床の現場で働く場合も統計学の基礎知識が全くない状態のままでは十分に業務を遂行することはできない。本講義は、心理学研究や心理臨床に必要な統計学の基礎知識をマスターすることを目的とする。
到達目標	データが与えられた際に、どのような分析方法を選択すればよいか、ある程度の判断ができるようになること。また、自分が選択した分析方法によって分析を実行し、結果を文章で纏めることができるようになることを最終的な到達目標とする。
講義方法	統計学の基礎的講義を行った後、電卓を用いたデータ分析演習を行う。
準備学習	心理学実習などデータ解析を扱った講義を履修した学生はその復習をしておくことが望ましい。
成績評価	受講態度(10%) 小テスト(何回か講義時間中に実施:60%) レポート課題(30%)
講義構成	1. 心理学と統計学 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. 散布度 5. 母集団と標本 6. 相関係数 6. 統計的仮説の検定の考え方 7. 平均値の差の検定(1) 8. 平均値の差の検定(2) 9. 分散分析(1) 10. 分散分析(2) 11. 分散分析(3) 12. カイ二乗検定 13. 多変量解析の基礎
教科書	なし。適宜プリントを配布する。
参考書・資料	講義中に紹介する。

担当者から一言	高校時代に数学が苦手であった学生も理解ができるか否か心配することなく履修して欲しい。全学生が「しみじみ」理解できるように講義を進めていくつもりである。分からないことがあれば、放置せず、質問するなどして次
---------	---

	の講義までに理解するよう努力すること。
その他	簡易電卓(加減乗除とルート計算ができるもの)を初回から毎回持参すること。

授業コード	14056		
授業科目名	<b>心理テストI</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)、望月昌恵(モチヅキ マサエ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	心理学の基礎的な研究方法を実習を通して学ぶ。統計法を理解しながら、実験、調査の方法を学び、心理学の考え方・方法論・考察の仕方などを、体験的に理解することが目的である。
到達目標	基本的な心理テストの背景理論、実施と分析・考察の方法、報告書の書き方を身につける。心理アセスメントが必要な臨床実践の場についても理解を深める。
講義方法	各テーマについて、講義、実習や討論、レポート作成を繰り返す参加型の授業である。詳しくは初回のオリエンテーションで説明するので、必ず出席すること。
準備学習	心理学実習を履修していることが望ましい。 ほぼ毎回レポートが課されるので、期日までにレポートを完成させて、授業に臨むこと。 授業前に事前学習が必要な場合は、先立つ授業時間中などに指示する。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。ほぼ毎回レポートが課される。
講義構成	第1回の授業で年間予定の詳細を説明する。仮登録も行なうので、受講を希望するものは必ず参加すること。将来、心理臨床領域で学ぶことを希望する学生は、この実習を受講することが望ましい。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。
教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。特に1年次の「心理学実習」「心理学基礎論」2年次の「心理学統計基礎論」と密接に結びついている。

授業コード	14058		
授業科目名	<b>心理テストII(後)</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
オフィスアワー	各担当教員の他科目のオフィスアワーを参照のこと。		

講義の内容	「心理学実習」「心理テストI」で学んだことを踏まえて、高度な専門的技術を要する個人検査の実施法と解釈法を学ぶ。
到達目標	心理アセスメントの際に用いられることが多い代表的な心理検査について、実施法と解釈方法を身につける。
講義方法	担当教員がそれぞれの専門領域に応じて分担担当する。詳細については第1回の授業でオリエンテーションとグループ分けを行うので、必ず出席すること。
準備学習	「心理学実習」「心理テストI」を履修していることが望ましい。
成績評価	出席状況とレポートの内容によって、総合的に評価する。各課題ごとにレポートが課される。
講義構成	第1回の授業全体のスケジュールの詳細を説明する。第2～3回目は全員で風景構成法の実施・解釈を行い、第4回目以降はグループに分かれて3つの心理テスト(WAIS-III・ロールシャッハ法・PFスタディ)の実習を行う予定である。すべての心理テストについて、まず受講生が自ら心理テストを施行してから、教員が基本的な実施法と評定・解釈法を講じる。受講生は、自らの検査結果を整理し、解釈をまとめる。心理テストによっては受講生以外の事例について解釈を行う場合もある。なお、原則として文学部人間科学科の学生に限る。

教科書	授業のなかで指示する。
参考書・資料	授業のなかで指示する。
講義関連事項	人間科学科の全科目。「心理学実習」「心理テストⅠ」から「心理テストⅢ」への橋渡しの性格を持っている。
その他	授業の形式上、授業時間に遅れないことを求められる。出席を厳密に取るので注意すること。

授業コード	14063		
授業科目名	<b>心理テストⅢ(後)</b>		
担当者名	弘田洋二(ヒロタ ヨウジ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	臨床場面で使用されるパーソナリティ・アセスメントの代表的なものであるロールシャッハ・テストの実施から結果の整理まで、解釈の前段階となる基礎を身につける。スコアリング実習を通して、各反応における認知体験のプロセスについて理解することも重要な目標である。 ロールシャッハ・テストはⅠカードからⅩカードまで、模様の異なったインクプロットによって構成されている。毎回ひとつのカードの反応について片口法によってスコアし、そのスコアリングの根拠を言葉にすることを練習する。用意された教材(事例)については、各回ごとに予習したレポートを提出することが義務づけられる。授業において、全員でそれらスコアリングを再検討して、スコアの意義や反応体験についての理解を身につける。
到達目標	ロールシャッハ・テストの実施から結果の整理まで、解釈の前段階となる基礎を身につける。 各反応における認知体験のプロセスについて理解する。
講義方法	実習および参加型学習形態である。 学生は与えられた教材につき予習して、テキストを読むなどの自習によってレポートを提出する。それを素材にしながら、受講者とともにその内容について検討する。講義の場は、受講者のした課題解決の点検および復習の場であるので、毎回の予習が不可欠である。
準備学習	適宜指示する。
成績評価	毎回提出されるレポート、授業への参加、学習貢献度と期末レポートによって評価する。割合は、平常点50、レポート50である。
講義構成	第1回: ロールシャッハ・テストについて 第2回: ロールシャッハ・テストの実施 第3回-12回: スコアリングの練習 第13回: スコアリング結果の整理の仕方 第14回: 解釈のために 第15回: 期末レポートの返却と解説
教科書	・ロールシャッハ・テストの学習一片口法スコアリング入門、片 口安史監修、藤岡新治・松岡正明著、金子書房、1993
参考書・資料	・ロールシャッハ・スコアリングー阪大法マニュアル、辻悟・福 永知子著、金子書房、1999 ・ロールシャッハ検査法、辻悟、金子書房、1997
講義関連事項	通常の講義に5回以上欠席すると、期末レポートは受けつけない。
担当者から一言	受講者は、テスターおよび被験者になる経験をしていることが望ましい。
その他	なし

授業コード	14060		
授業科目名	<b>心理療法(後)</b>		
担当者名	北川 恵(キタガワ メグミ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オン・デマンドで行う。		

講義の内容	対人援助と心理療法の基本的な考え方や姿勢を学ぶ。心理療法の主要な理論や技法も紹介する。
到達目標	主要な理論が誕生した背景とともにその特徴を知り、効用と限界について考えられるようになる。
講義方法	講義形式で行うが、グループディスカッションや実習などの体験的要素を取り入れる。
準備学習	心のしくみや不適応など、臨床心理学の基礎知識があることが望ましい。
成績評価	授業への参加、レポート、テスト。
講義構成	心理療法の主要な理論である精神分析、(認知)行動療法、来談者中心療法、ならびに子どもを対象とする遊戯療法について学ぶ。心理療法家の基本姿勢や、広く対人援助のなかでの心理療法の役割などについても考えたい。
教科書	授業中に適宜紹介する。

授業コード	14061		
授業科目名	<b>心理臨床研究</b>		
担当者名	森 茂起(モリ シゲユキ)		
配当年次	3・4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(土曜1限)、後期(土曜1限)
オフィスアワー	参加者の報告日時は、各自に指示する。		

講義の内容	学外の施設や活動にボランティアとして参加し、治療的配慮を持ったかかわりを体験することによって、心理臨床への理解を深める。
到達目標	臨床現場に触れることで、実践的な感覚を身につける。
講義方法	遊戯療法の実践に参加する機会が多い。週1回、児童養護施設などに出かけていき、特定の子どもに1対1で関わる。その他、さまざまな問題を抱える子ども対象のキャンプなどに参加する活動もある。活動の報告を学内で担当教員に行ない、指導を受ける。
準備学習	なし
成績評価	活動への参加と報告。レポートの作成。
講義構成	実習先によって活動形態が異なるため、履修指導に注意すること。活動の曜日、時間帯は個人によって異なる。初回にオリエンテーションを行なうので、第1回の講義(土曜1限)に必ず参加すること。オリエンテーションに参加しなかったものは、原則として受講できない。(初回以外は土曜に講義はありません)
教科書	なし
参考書・資料	なし

担当者から一言	学外の活動(子どもとの活動)に熱心に取り組める学生の参加を期待します。
---------	-------------------------------------

授業コード	14040		
授業科目名	<b>神話論(前)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
オフィスアワー	授業終了後、随時。		

講義の内容	ギリシア神話をもとにして紀元前5世紀に作られたギリシア悲劇のいくつかを選択してテキストとして読み、また現代の舞台や映画を見ることによって、ギリシア神話の意味を考える。
到達目標	ギリシア神話の現代性を理解する。
講義方法	パワーポイントを使った講義形式で行う。ビデオやOHPも使う。テキストはコピーして渡す。
準備学習	与えられたテキストは必ず読んでくること。
成績評価	毎回出席をとる。



	まだ学期中の小レポート(800字程度)を2回、学期末の大レポート(4000字)一回を課す。レポート点60%、出席点40%を基準とする。
講義構成	以下の悲劇を順次検討してゆく。最初の授業の際に、詳しい日程表を渡す。  1)ギリシア悲劇とは(1回) 2)ソポクレス『オイディプス王』を読む・見る(2回) 3)アイスキュロス『アガメムノン』を読む・見る(2回) 4)エウリピデス『トロイアの女』を読む・見る(2回) 5)エウリピデス『オレステス』を読む・見る(2回) 6)エウリピデス『メディア』を読む・見る(2回) 7)まとめ(1回)
教科書	必要な資料はプリントで配布する。
参考書・資料	ちくま文庫 『ギリシア悲劇 I・II・III・IV』 岩波文庫 『アガメムノン』(久保正影訳) 岩波文庫『オイディプス王』(藤沢令夫訳) れんが書房『オレステス』(山形治江訳) その他
講義関連事項	イメージと神話

授業コード	14055		
授業科目名	<b>精神医学</b>		
担当者名	鈴木瑞実(スズキ タマミ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)

講義の内容	精神医学は、心理学をはじめとする人文諸科学と、身体医学をはじめとする自然科学の両方に渡って展開する、複雑で広大な分野です。時代の激変とともにこの分野の変化も著しく、また最新の知見も次々に積み重ねられつつあり、わが国の標準的な精神医学の教科書でも、この20年で2倍の分厚さになりました。「どうしても知っておかねばならないこと」「知っておいたほうが良いこと」を確実に伝達し、また、多方面にわたる関連諸領域の話題も適宜取り入れて、精神医学の豊かさも伝えることを目指します。
到達目標	精神医学を使いこなす
講義方法	各回のまとめプリント(レジュメ)を、MY KONAN(クラスプロファイルの「授業資料」)に、少なくとも一週間前までにUPしますので、授業日にはそれをプリントアウトして持参してください。基本的にそれに沿って授業を進めてゆきます。双方向のやり取りになる授業の回も予定しています。
準備学習	精神医学に現在持っているイメージ、興味が持てそうな分野、精神医学や精神のやまいが出てきて印象に残っている文学・音楽・映像作品などを尋ねられたら、各自すぐまとめられるようにしておいてください。
成績評価	筆記試験(期末)による評価など
講義構成	[前期]序論、神経症、精神医学史、症状論、診断学、統合失調症、脳とこころ、天才と精神医学 ほか [後期]老年精神医学、感情障害、精神病理学、パーソナリティのかたより、睡眠と夢、ひきこもり、映画と精神医学、精神科治療学 ほか
教科書	・現代臨床精神医学(金原出版) ・看護のための精神医学(医学書院)
参考書・資料	ICD-10(医学書院)・シャルコー(勉誠出版)・無意識の発見(上)(下)(弘文堂)・狂気(一冊でわかる・岩波)・精神症候学(第2版・弘文堂)
講義関連事項	一週間前までにUPされた授業資料(プリント)の、大項目だけでも良いですから、ざっと目を通しておいて下さい。参考書・資料は、できるだけ順次図書館に入れて頂きますので、進んで学習したい学生の方は、ぜひ目を通してみてください。疑問のある方は、講師までどしどし質問・希望を寄せてください。
担当者から一言	隔週水曜・午後3時から午後5時まで、18号館1階の学生相談室にいる予定です。質問・相談などある人は、コンタクトしてください。

授業コード	14007		
授業科目名	<b>卒業研究</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、斧谷彌守一(ヨキタニ ヤスイチ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、谷口文章(タニグチ フミアキ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)、森 茂起(モリ シゲユキ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)、川田都樹子(カワタ トキコ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、北川 恵(キタガワ メグミ)、福井義一(フクイ ヨシカズ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	演習		

講義の内容	学部4年間の総括として、卒業論文の名に値するような研究論文・作品を書くために助言・指導を行う。
到達目標	論文としてしっかり仕上げること。
講義方法	演習で、自分のテーマを研究発表することにより、より専門的な卒業論文・作品が書けるように個人指導を行う。
準備学習	各自が所属するゼミ(演習)において、指導教員の元で論文のテーマ、論文題目を決定し、各自の研究を進めていく。
成績評価	卒業論文として、主査・副査による面接審査。
講義構成	主として演習の中において専門的指導を行う。さらに個別のテーマにそった指導も行う。
教科書	特に指定しない。

ホームページタイトル	文学部 人間科学科
URL	<a href="http://www.konan-u.ac.jp/~bun/ningen/">http://www.konan-u.ac.jp/~bun/ningen/</a>

授業コード	14008		
授業科目名	<b>哲学思想基礎論</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
オフィスアワー	授業の前後の1時間		

講義の内容	人生の意味は何か、世界をどのように見るか、人間はどのように行為すべきかの諸問題を検討する。そのために、人生の意味、世界の見方、行為のあり方について考察する。
到達目標	自らの力で「哲学する」習慣を身につけること。
講義方法	ノート講義が中心であるが、下記のテキストも併用する。
準備学習	各授業で示された文献を、次回までに一読しておく。
成績評価	テストと出席点
講義構成	1. 人生の意味: 生と死、挫折と希望、愛と虚無、幸福論、老いと病い等 2. 世界の見方: 社会と制度、法と経済、自然と環境、言語と文化等 3. 行為のあり方: 精神と意志、自由と義務、行為と価値、理想と現実等
教科書	里見軍之・谷口文章編『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
参考書・資料	資 料: VTR、スライド
講義関連事項	「環境学基礎論」、「国際環境教育ネットワーク」、「哲学思想史」、「心身論」、「環境倫理学」

担当者から一言	若い時代の悩みは、人生の宝です。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14065		
授業科目名	<b>哲学思想史(後)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	哲学は、現実アクションできる思考を鍛えるものである。その意味で、イギリス・アメリカの経験論を系譜とした哲学思想史をテーマ別に追っていく。
到達目標	行間にある文脈を、哲学思想史的に把握できるようにすること。
講義方法	ノートと関連資料
準備学習	構成項目の哲学者の古典を、どれか一つ継続して読むこと。
成績評価	レポートと出席点
講義構成	01. A. スミスの「理想的観察者 ideal observer」論 02. ベンサムとミルの功利主義とカントの義務論 03. ベンサムの量的功利主義 04. ミルの質的功利主義 05. カントの義務論 06. パースの問題解決方法 07. ジェイムズの純粹経験 08. ディーイの経験主義的教育論 09. ローティの会話論 10. 現代における哲学の役割
教科書	里見軍之・谷口文章『現代哲学の潮流』(ミネルヴァ書房)
講義関連事項	哲学思想基礎論／環境学基礎論／倫理思想史

担当者から一言	哲学は難解と思われがちですが、「人生を豊かに考える」ためには示唆されることが多いと思います。さらに英米哲学の思想史的系譜を通じて、現代的な諸問題を読み解く力をつけていきましょう。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	14035		
授業科目名	<b>東洋哲学</b>		
担当者名	井澤 清(イザワ キヨシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜1限)、後期(木曜1限)

講義の内容	<p>祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響あり。沙羅双樹の花の色 盛者必衰のことわりをあらはす。周知の平家物語冒頭部である。この詠嘆が仏教の無常観に基づくものであることは確かだろう。とは言え、諸行無常の達観は必ずしも悲観主義にのみ通じるものではない。</p> <p>大乘仏教の初期経典『般若心経』は、この世の一切が空であると断じる。空とは無常の謂いである。そこで、無常であり、空であるからこそ、不生不滅であり、苦が生じることもない、と『般若心経』は論じる。これは悲観主義どころか、楽観主義にさえ通じる達観である。一面的な無常観を再考し、その真の意味を理解することが本講義の第一の狙いである。特にその際、『般若心経』の論理を考えてみる。</p> <p>次に、この『般若心経』の無常観の理解に基づいて、『金剛般若経』における不可解な論断を考えてみたい。『金剛般若経』には「如来が、この上ない正しい覚りを覚ったというようなことはなにもない。それだからこそ、〈この上ない正しい覚り〉と言われる」とある。また、「真実だという思いは、真実でないという思いである。それだからこそ、〈真実だという思い〉と説かれる」とある。この反論理的な論断は何を表わすのだろうか。その「論理」を理解することが本講義の最終的な狙いである。</p>
到達目標	生成消滅の原理となっている実体観をまず理解する。次に、その実体観が何を根拠にして認められるかを考

	える。次に、実体観に基づく時間論を考える。時間とは何か、生成消滅と時間とはいかに関わるかを理解する。さらに、実体観と論理について考える。論理とはそもそもいかにして成立するかを理解する。最後に、言語はいかにして使用されているかを考え、言語と実在との関係を理解する。
講義方法	教科書を使用し、般若経の經典を実際に読んでゆく。その際、事前に要約者と質問者を決めておく。要約者には担当分の教科書を読んできて、講義でその内容を簡潔に要約してもらう。質問者には疑問点をいくつか用意してきてもらう。質問の後を議論の時間とし、他の出席者も交えて考えを出し合ってもらい、共通の理解をまとめあげてゆく。 仏教思想史に関しては随時、必要に応じて教示する。
準備学習	次回分のテキストに関して、要約者は紙に要約文を書いてくる。その他の出席者は質問事項をいくつか紙に書いてくる。
成績評価	平常点と学年末試験の点数で評価する。平常点は、発表内容と回数、質問内容と回数、議論の時間での発言内容と回数とし、それを点数化する。発表と質問は最低各2回を義務とする。発言に関しては、内容も大切であるが、まず発言してみようとする積極性を期待する。
講義構成	1 『般若心経』読解。初期大乘仏教の空観を見る。 1. 1 仏教史概説 1. 1. 1 仏教前史。「ヴェーダ」聖典における汎神論的梵我一如の思想を見る。 1. 1. 2 初期仏教。無常観と無我観を見る。 1. 1. 3 部派仏教。実体論に通じる三世実有説を見る。 1. 1. 4 初期大乘仏教。無我観から空観への展開を見る。 2 『金剛般若経』読解。言語と論理を考える。 2. 1 中観への展開を見る。 2. 2 唯識説への展開を見る。 3 まとめ。西洋哲学、宗教との関連に触れる。
教科書	『般若心経・金剛般若経』中村元・紀野一義訳注(岩波文庫・青303-1)
参考書・資料	『世界の名著2 大乘仏典』長尾雅人編 『空と無我』定方晟(講談社現代新書) 『唯識入門』横山紘一(第三文明社レグルス文庫) 『大乘仏典14 竜樹論集』梶山雄一、瓜生津隆真訳(中公文庫) 『インド思想史』中村元(岩波全書)
講義関連事項	西洋哲学(認識論)、宗教
担当者から一言	われわれは学校教育の中で、答えが一つである問題に慣らされてきた。しかし、われわれが現に対処してゆかなければならない数多くの問題は必ずしもそうした単純なものではないだろう。この講義では、答えが必ずしも一つとは限らない、あるいは、答えが出ないかもしれない問題について、一から自分の力で考えてゆく機会を提供したい。

授業コード	14001		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	担当教員が複数であるため、各自問い合わせること。		

講義の内容	「心」の問題を取り巻く社会のコンテキストを理解し、合わせて臨床心理学の基礎概念に習熟することを目指す。
到達目標	社会的コンテキストのなかで何が起きているか、それがこころの問題にいかに影響を与えているかということについて基礎的なことを学ぶ。
講義方法	前半を心理臨床の教員が、後半を人間表現領域の教員が担当する。 クラスをグループに分け、各グループが順次、一テキストないしテーマを担当して発表を行い、続いて全員で討論する。
準備学習	与えられたテキストを読み、レポートを書くこと。
成績評価	レポートで評価する。
講義構成	受講者と相談の上決定する。

教科書	その都度配布することを原則にするが、心理臨床領域は事前にテキストを指定することがある。
参考書・資料	その都度指示する。
担当者から一言	その都度の問題を他人事としてではなく、自分のこととして理解する態度が必要です。積極的に参加してください。

授業コード	14A11		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習I (1クラス)(前)</b>		
担当者名	上村くにこ(ウエムラ クニコ)、横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。		
到達目標	社会的出来事、それと付随して起きてきている心の問題の論文を全体討論しながら学び、心と社会の関係の基礎的なことを学ぶ。		
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。		
準備学習	前もって論文を渡すので、それについてのレポートを書いてもらい、それに基づいて議論する。		
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14A12		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習I (2クラス)(前)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	様々な論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。		
到達目標	文献読解、プレゼンテーション、討論の技術の習得。		
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。		
準備学習	必要としない。		
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度プリントを配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14A13		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習I (3クラス)(前)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)、羽下大信(ハゲ ダイシン)		

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事を読みながら、社会と心への基礎的理解を高める。
到達目標	テキストを深く理解し、討論する能力の養成。
講義方法	1クラスを複数のグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストについての報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全員が参加する討論の司会をする。
準備学習	前もって配布するテキストを十分に読んでくること。
成績評価	人間表現領域、心理臨床領域の2つのレポートの総合で評価する。
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。
教科書	その都度配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A21		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習II (1クラス)(前)</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。
到達目標	人間科学基礎演習 I と同じグループで、グループ討論、全体討論を行い、社会と心の問題の理解をより深める。
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。
準備学習	レポートを人間表現、心理臨床と3本ずつ渡すので、前もってそれらを読み、理解し、意見を言えるようにしておくこと。なお討論は論文1本につき2回である。
成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。
教科書	その都度配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A22		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習II (2クラス)(前)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	様々な論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。
到達目標	文献読解、プレゼンテーション、討論の技術の習得。
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。
準備学習	必要としない。

成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。
教科書	その都度プリントを配布する。
参考書・資料	その都度指示する。

授業コード	14A23		
授業科目名	<b>人間科学基礎演習II (3クラス)(前)</b>		
担当者名	羽下大信(ハゲ ダイシン)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限
特記事項	自動登録		

講義の内容	複数の論文や記事をテキストに、社会と心への基礎的理解を深める。		
到達目標	テキストを深く理解し、問題を討論する上で、自らの意見を発表する能力の養成。		
講義方法	クラスをグループに分け、各グループが1テーマを担当し、テキストの報告を行うとともに、グループごとに話し合うべき問題点を指摘し、全体が参加する討論の司会をする。		
準備学習	事前に配布するテキストを十分に読んでくること。		
成績評価	両領域で課すレポートの総合で評価する。		
講義構成	初回のオリエンテーションで発表する。		
教科書	その都度配布する。		
参考書・資料	その都度指示する。		

授業コード	14023		
授業科目名	<b>人間環境論 I (集中)</b>		
担当者名	清水芳久(シミズ ヨシヒサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)

講義の内容	地球上では、さまざまな人間活動と自然のサイクルが相互に関係し、微妙なバランスを保っている。環境問題を理解し人間活動との関係を解明するには、環境問題を全体としてとらえつつ個別の問題の現象や課題の特徴をとらえることが重要である。本講義では、まず、ストックホルムからリオデジャネイロを経由してヨハネスブルグに至る国際的な環境問題への取り組みの努力を歴史的に考察すると共に、各種の地球環境問題のメカニズムと課題、現象の把握や対策に活かされている技術を概観する。		
到達目標	日本と地球の環境問題についての科学的知識の一端を習得すること。		
講義方法	通常の講義を実施すると共に、人間と環境の望ましい関わりを考えるため、地球環境問題や地域環境問題の中からテーマを選び、グループに分かれて討議とプレゼンテーションを実施する。		
準備学習	新聞、ラジオ、テレビ等で情報を収集しておくこと。		
成績評価	試験ないしはレポート、討議とプレゼンテーションへの参加と成果、および出席率を総合して評価する。		
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・地球環境問題とは？</li> <li>・地球環境問題のメカニズムと対策</li> <li>・環境汚染の現状と課題</li> <li>・各国・各地域における環境問題の取り組み</li> <li>・まとめ</li> </ul>		
教科書	特になし		
参考書・資料	随時資料を配付する。また映像資料も活用する。		

担当者から一言	講義中は大いに明るく躊躇せずに発言して下さい。
---------	-------------------------

授業コード	14024		
授業科目名	人間環境論Ⅱ(後)		
担当者名	清水芳久(シミズ ヨシヒサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	地球上では、さまざまな人間活動と自然のサイクルが相互に関係し、微妙なバランスを保っている。環境問題を理解し人間活動との関係を解明するには、環境問題を全体としてとらえつつ個別の問題の現象や課題の特徴をとらえることが重要である。本講義では、地域環境問題のメカニズムと課題、現象の把握や対策に活かされている技術を概観する。
到達目標	日本と地球の環境問題についての科学的知識の一端を習得すること。
講義方法	通常の講義を実施すると共に、人間と環境の望ましい関わりを考えるため、持続可能性(sustainability)等について、グループに分かれて討議とプレゼンテーションを実施する。
準備学習	新聞、ラジオ、テレビ等で情報を収集しておくこと。
成績評価	試験ないしはレポート、討議とプレゼンテーションへの参加と成果、および出席率を総合して評価する。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・地域環境問題とは？</li> <li>・環境汚染の現状と課題</li> <li>・日本の公害対策と環境の現状</li> <li>・地域環境問題の取り組み</li> <li>・Sustainabilityとは？</li> <li>・まとめ</li> </ul>
教科書	特になし
参考書・資料	随時資料を配付する。また映像資料も活用する

担当者から一言	講義中は大いに明るく躊躇せずに発言して下さい。
---------	-------------------------

授業コード	15R12		
授業科目名	博物館学Ⅰ(B)(集中)		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、平井章一(ヒライ ショウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	<p>&lt;②美術領域&gt;</p> <p>独立行政法人化、指定管理者制度の導入など、いま博物館を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。いいかえれば、「博物館」とは何かや、博物館の「公共性」とは何かが今ほど問われている時代はないといえるでしょう。ここでは、こうした今日的な問題を踏まえながら、博物館の機能や学芸員の役割を学びます。</p> <p>[Ⅰ:見学編]では、実際に美術館に行って展覧会を見学し、学芸員の実務や博物館の施設について学びます。</p> <p>[Ⅱ:講義編]では、博物館の理念や機能を、資料や映像、学芸員である講師の実体験にもとづく裏話などを織り交ぜながら、わかりやすく紹介します。また、受講生とともに、これから求められる美術館像、学芸員像についても考えてみたいと思います。</p>
到達目標	博物館の中でも、特に美術館に関して、その現状と今日的課題を知り、美術館学芸員として必要な知識を身につける、



講義方法	[Ⅰ:見学編]と学芸員資格取得に関する管理は川田が担当し、[Ⅱ:講義編]は、平井が担当する。全員、[Ⅰ]+[Ⅱ]の両方を受講すること。
準備学習	各自で、なるべく多くの美術館を訪れ、展示作品だけでなく、展示形態や美術館のシステムなどにも注目しつつ見学しておくこと。また、美術館が提供するイベント、ギャラリー・トーク、ワーク・ショップなどにも、積極的に参加しよう。
成績評価	[Ⅰ:見学編]=出席点+レポート、[Ⅱ:講義編]=出席点+レポート 最終:[Ⅰ]+[Ⅱ](総合点で判断する)
講義構成	[Ⅰ:見学編](川田担当) 詳細は4月の「学芸員養成課程ガイダンス(2回生用)」で提示する。 前期期間中に3~4回の変則的な実施になるので注意すること。 主に土曜日の午後に、学外の美術館を見学することになる。 毎回、簡単なレポートを提出してもらう。  [Ⅱ:講義編](平井担当) 夏季集中講義(3日間・1~4限)8月23日(月)、24日(火)、25日(水)。 日程等の詳細は、教務課掲示板にて決定次第、発表する。 最終レポートの提出を求める。
教科書	特に指定しない。必要事項は適宜プリントして配布する。
講義関連事項	4月の「学芸員養成課程ガイダンス(2回生用)」に必ず出席すること。
担当者から一言	[Ⅰ:見学編]と[Ⅱ:講義編]の、両方に必ず出席すること。片方だけしか出席しなかった場合は、履修単位を認められないので注意すること。
その他	[Ⅰ:見学編]の集合日時・場所などの詳細は教務部の掲示板と10号館6階エレベータ・ホールの掲示板にも各見学の1ヶ月前から通知する。

授業コード	15R13		
授業科目名	<b>博物館学I(C)(後)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	地域文化や産業の再生、持続可能な社会づくり、伝統文化の伝承など、もう一度足元から我々の社会と生活の有り様を再構築する動きが、外因的にも内発的にも現れている。20世紀の効率主義と進歩思想によって失われた価値の再評価と新たな価値観の創造が求められている時代である。 博物館という社会装置はこのような現代的な課題に対して、どのように関わりを持つのだろうか？ また、実際にはどう関わっているのだろうか。 各地にある博物館(類似施設を含む)を紹介しながら、生涯学習の場として市民の社会参加を下支えするその役割や実態、課題等について探っていきます。
到達目標	自然誌博物館の役割を理解すること。
講義方法	全体に講義を主にするがビデオやスライド等を教材として使用する。博物館の具体的な活動に関しては見学や開催セミナー等の聴講を課する。 事例として、出来るだけ地域や社会の現代的な課題にコミットして、ユニークな運営をしている博物館を取り上げる。
準備学習	身近な博物館(動物園、水族園、昆虫館など)を繰り返し訪れておく。
成績評価	期末レポートと中間のミニレポート及び出席数により総合的に評価する。
講義構成	1. 博物館と生態学【谷口】 2. 生涯学習システムの中での博物館【戸田】 3. 自然・科学博物館の現状(博物館の機能紹介)【戸田】 4. 役割と機能の新たな展開(歴史的視点から)【戸田】

	5. 自然・環境系博物館の現代的な役割【戸田】 6. 博物館体験交流(私の見た博物館)【戸田】 7. 都市における博物館の魅力【戸田】 8. 拡大する博物館の概念・地域おこしとエコミュージアム【戸田】 9. 企業のCSR活動と博物館【戸田】 10. 大学博物館の役割【戸田】 11. ネットワーク型博物館の可能性【戸田】 12. 博物館と市民・NPOのパートナーシップ【戸田】 13. 現代社会の課題に取り組む博物館や博物館類似施設【戸田】 14. 博物館学と環境教育【谷口】
教科書	適宜紹介します。
参考書・資料	・適宜紹介します ・学内イントラネットe-Learningコンテンツ「人間と環境」
講義関連事項	人間科学科専門科目：国際環境教育ネットワーク／国内環境教育ネットワーク
担当者から一言	トピックを交えながら双方向型で講義を進めます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	15R22		
授業科目名	<b>博物館学II (B)(後)</b>		
担当者名	池上 司(イケガミ ツカサ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		

講義の内容	「博物館概論」と「博物館学 I (B)」の内容をさらに深める。 美術館の展覧会について講義し、適宜グループワーク、ディスカッション、見学実習を行う。		
到達目標	学芸員としての実践的な視点を養い、自ら展示を発想する力を身につけることを目的とする。		
講義方法	講義、見学実習		
準備学習	できるだけ展覧会に足を運び、多くの展示を見ること。		
成績評価	授業への取り組み方(70%)、課題レポート(30%)による総合評価		
講義構成	(1)美術作品の展示 (2)平面図を書く (3)インスタレーションについて (4)キュレーターの仕事 (5)展示プランを考える		
教科書	特に使用しない。		
参考書・資料	アメリカ・アレナス『みる・かんがえる・はなす 鑑賞教育へのヒント』、淡交社、2001年		
講義関連事項	適宜見学実習を実施し、その都度レポートを課す。見学実習に関する詳細は授業中に指示する。		
担当者から一言	自ら学ぶ姿勢を重視する。日頃から美術館や展示に関心を持つこと。		

授業コード	15R23		
授業科目名	<b>博物館学II (C)(前)</b>		
担当者名	谷口文章(タニグチ フミアキ)、戸田耿介(トダ コウスケ)		
配当年次	3年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜1限
特記事項	「2007年度以降入学生は、歴史文化領域コースは(A)、美術領域コースは(B)、環境領域コースは(C)を履修すること。 2006年度以前入学生は、歴史文化学科は(A)クラス、人間科学科は(B)・(C)クラスのいずれかを履修すること」		
オフィスアワー	授業の前後1時間		

講義の内容	「対話と連携」を運営の基礎に据え、知識社会に 대응するために市民とともに新しい価値を創造し、生涯学習活動の中核として機能する博物館が望まれている。特に、自然系博物館には環境問題への対応や科学・技術振興への寄与が期待されているが、多くの博物館(類似施設を含む)はこの要請にどう応えようとしているのだろうか。そのために必要とされる施設や組織はどのように構築され機能しているのか。その中で学芸員はどの様に活動しどの様な役割を果たしているのか。各地にある博物館の活動を紹介しながら、これからの博物館の社会的な役割を探ります。
到達目標	生命、自然を見る眼を養う。その上で学芸員の役割を身につける。
講義方法	全体に講義を主にするがビデオやスライド等を教材として使用する。博物館の具体的な活動に関しては受講者の自主的な見学や開催セミナー等への参加を勧める。また、講義の中で動物園や水族園等の博物館見学も予定する。
準備学習	ミニレポートのためのテーマを調べておく。
成績評価	期末レポートと講義中のミニレポート、出席数等により総合的に評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館と環境創造【谷口】</li> <li>2. 自然・環境系博物館の役割の新たな展開—人と自然の博物館を事例に【戸田】</li> <li>3. 博物館資料の収集と保存技術の動向【戸田】</li> <li>4. 博物館展示のあり方と学芸員の役割【戸田】</li> <li>5. 博物館資料の活用【戸田】</li> <li>6. 博物館の啓発活動と学芸員の役割【戸田】</li> <li>7. 環境問題と博物館等の取り組み【戸田】</li> <li>8. まちおこし等に寄与する博物館の魅力【戸田】</li> <li>9. 博物館での市民参画をどう進めるか【戸田】</li> <li>10. 博物館体験(現地見学)【谷口・戸田】</li> <li>11. 学校教育と博物館との連携【戸田】</li> <li>12. 博物館の評価と運営のあり方【戸田】</li> <li>13. 博物館の役割と学芸員の位置づけ【戸田】</li> <li>14. 生涯学習システムの中での博物館【戸田】</li> <li>15. 予備日【谷口】</li> </ol>
教科書	適宜紹介します。
参考書・資料	適宜紹介します
担当者から一言	トピックを交えながら双方向型で講義を進めます。
ホームページタイトル	甲南大学文学部 谷口研究室
URL	<a href="http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/">http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/</a>

授業コード	15R32		
授業科目名	<b>博物館実習(B・C)(集中)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)、谷口文章(タニグチ フミアキ)、西 欣也(ニシ キンヤ)、池上 司(イケガミ ツカサ)		
配当年次	3・4年次	単位数	3
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
オフィスアワー	(川田:質問・相談受け付け)前期は金曜3時間目終了後、後期は水曜1時から3時		

講義の内容	博物館学芸員課程の最後の科目として、自然誌博物館や美術館やギャラリーでの実習を行います。博物館の役割や学芸員としての活動を、現場にたって学習します。
到達目標	現場での実習を通して、博物館学芸員としての知識と技量を身につける。
講義方法	事前指導・事後指導は学内で行います。実習は受講生が複数の博物館・美術館・ギャラリー等に分かれて行います。

準備学習	受講要項の注意事項を良く読んでおくこと。 学内で開催される学芸員講演会には必ず出席するように。 また、放課後や休日などを利用して、なるべく多くの関連施設(環境学系選択者は自然誌博物館を、芸術学系選択者は、美術館やギャラリー)を見学しておくこと。
成績評価	事前指導・事後指導におけるレポート、および実習の成績を総合して評価します。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館実習は、事前指導、実習、事後指導からなります。</li> <li>・事前指導は4年次前半に1～2回、事後指導は4年次後半に1回を予定しています。</li> <li>・「環境学系」選択者は学外の自然誌博物館、「芸術学系」選択者は学外の美術館または学内のギャラリー施設での実習になります。</li> <li>・学外の博物館・美術館での演習内容はそれぞれの館が行っている実習プログラムによります。また実習期間は5日～8日間程度で、実習館によって異なります。実習時期も実習館によって異なります(早いところでは4月・5月から、遅いところでは11月・12月まで)。</li> <li>・学内ギャラリーでの実習は、夏期休暇中を中心に集中形式で行います。</li> <li>・詳細は4月に行うガイダンスで説明します。</li> </ul>
教科書	ガイダンスの時に指示します。
参考書・資料	「博物館実習ノート」を配布します。
担当者から一言	<p>3年生は履修登録の必要はありません。 4年生のみ登録してください。 受講登録については4月初めのガイダンスで別途指示します。 ガイダンスには必ず出席してください。 また受講要項の注意事項を読んでおいてください。</p>
その他	「環境学系」か「芸術学系」かは、各自が既に選択したものから変更できない。 本実習は、必要科目を既に履修し、昨年度までに「実習面接」に合格した者しか受けられない。

授業コード	14052		
授業科目名	<b>発達心理学</b>		
担当者名	中島暢美(ナカジマ ノブミ)		
配当年次	学部学科により異なる	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜4限)、後期(金曜4限)

講義の内容	<p>講義では、人の受胎から老年に至るまでの生涯を、発達心理学の視点から学びます。 人の全成長過程を連続したものとして捉え、各発達段階における重要な発達変化について学習します。また、各発達段階を相互に比較し、関係づけながら、一連の発達過程の中に位置づけていきます。</p> <p>講義の目的の、第1は、発達心理学についての基礎的知識の習得です。第2は、たんに知識の暗記に留まらず、受講生各人がすでに自分自身の身につけている成育歴を通して学習していく時間を共有したいと考えています。つまり、発達心理学とは何かを良く知ること、そして、それを時には自分の経験にあてはめ、自分の言葉に置き換え、自分のものにする(身につける)ことが主な作業となります。さらに、受講生各人が、本講義を通して“成長する”あるいは“学ぶ”とはどういうことかを“自分で考えてみる”機会になることを願っています。</p>
到達目標	初回講義で説明します。講義内容を参照してください。
講義方法	講義中心の授業です。各発達段階ごとに講義レジュメと関連資料を配布します。受講生は、講義の中で重要と思われることを記入する等、講義レジュメを自分なりに工夫して完成します。自分で作成した講義レジュメは、試験対策ノートになります。
準備学習	適宜指示します。
成績評価	<p>1.出席状況。 年間を通して、欠席3分の2以上は不可となります。遅刻・早退は3回で、欠席1回とみなし、30分以上の遅刻や早退は欠席とみなします。</p> <p>2.前・後期試験の結果。 各100点満点で、前・後期試験合計÷2で、60点以上が合格となります。 以上1.2の総合評価とします。</p>
講義構成	<p>1回 オリエンテーション 2回 (簡易)オリエンテーション、生涯発達心理学とは 3回 人間の発達と人格について 4回 胎児期 ～胎児の心～ 5回～8回 乳時期 ～愛着の形成と言語の発達～</p>

	9回~13回 幼児期 ~ 幼児の視点~ 14回 前期試験 <夏季休暇> 1回 前期試験解答 2回~6回 児童期 ~家庭教育と学校教育~ 7回~9回 青年期 ~自立と自律~ 10回 中年期 ~ライフ・イベント、ストレス、コーピング~ 11回~13回 老年期 ~高齢者の知能と人格~ 14回 後期試験
教科書	テキストは特に指定しません。
参考書・資料	田島元信、高橋恵子、無藤隆編『発達心理学入門Ⅰ 乳児・幼児・児童』東京大学出版会 田島元信、高橋恵子、無藤隆編『発達心理学入門Ⅱ 青年・成人・老人』東京大学出版会 村瀬学『初期心的現象の世界』『子ども体験』『理解のおくれの本質』大和書房
担当者から一言	人間科学科(心理臨床領域)の学生、教職をめざす学生には受講をお勧めします。また、将来の目標や自分が何をしたいのかわからなくて困っている学生にも、自分を見つめなおすための一助になるかもしれません。

授業コード	14036		
授業科目名	<b>美術史I(前)</b>		
担当者名	川田都樹子(カワタ トキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	授業終了後+金曜3時限終了後		

講義の内容	<p>——『美術史の基礎概念』(様式史としての美術史)の再考——</p> <p>市販の美術全集の編纂の仕方や、テレビの美術番組の作り方などを見てみると、現在でも一般に「美術史」といって、「ルネサンス時代の美術」「バロック時代の美術」「ロココ時代の美術」…といったように、「時代様式」で区分して「美術史」を語ることが多いだろう。こうした「様式史としての美術史」というスタイルが定着したのは、20世紀になってからのことである。この講義では、このスタイルを定式化した美術史家、ハインリヒ・ヴェルフリンの思考法を紹介し、それにひとまず則しながら、16世紀(ルネサンス)と17世紀(バロック)の美術様式を比較し、この方法論が他の時代にも適応しうるかどうか検討してみる。</p> <p>しかしながら、実は現今の「美術史研究」では、この方法論は批判され超克されつつある。なぜ「様式史」は否定されつつあるのか、また、それを超えて行こうとする「美術史研究」とはいかなるものか。講義の終盤では、「様式史としての美術史」を批判的に検証し、近年の「美術史学」の動向を紹介する。</p>
到達目標	学問としての「美術史学」のあり方を考察することが最終目標だが、授業の過程を通して、「芸術作品を見る目」も養ってもらいたい。
講義方法	PCプロジェクターや書画カメラなど視覚資料を講義に使用。
準備学習	日頃から、美術館、ギャラリー、画集、美術雑誌などで、美術作品に親しんでおくこと。
成績評価	学期末のレポートで、授業内容の理解度を確認し、同時に自分自身の意見も書いてもらう。 また、授業時には、出欠確認を兼ねたアンケート調査を実施し、成績評価に反映させる。 評価点の比率は、「期末レポート」：「出席率」= 60：40。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ハインリヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』(1915) 概説 <ul style="list-style-type: none"> <li>「様式史」としての「美術史」とは？</li> <li>(直観の範疇としての)5対の「基礎概念」</li> <li>16世紀芸術=「クラシック様式」/17世紀芸術=「バロック様式」</li> <li>「歴史」は繰り返される？</li> <li>ヴェルフリンの用いたレトリック</li> </ul> </li> <li>●ヴェルフリン以後の「美術史」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「モダニズム」を支えた「進歩史観」の批判的検証</li> </ul> </li> <li>●「ポスト・ヒストリー」時代の「美術史」 <ul style="list-style-type: none"> <li>「進歩史」としての美術史観が、現在では否定される理由</li> <li>「ニュー・アート・ヒストリー」</li> <li>「ヴィジュアル・カルチャー・スタディーズ」</li> </ul> </li> </ul>
教科書	必要なテキストは適宜プリントして配布する。

参考書・資料	参考書: ハインリヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』海津忠雄・訳、慶應義塾大学出版会、2000年。 ジョン・A・ウォーカー & サラ・チャップリン『ヴィジュアル・カルチャー入門』岸文和他訳、晃洋書房、2001年。
講義関連事項	「現代芸術論Ⅰ」と合わせて受講することをお勧めする。
担当者から一言	特にプロジェクター使用中の入室・退室は禁止する(明かりが入るとスクリーンが見づらいので)。
その他	プロジェクター使用時は部屋を暗くする。教室によっては、ノートを取るために、各自で手元あかり(ペンライトなど)を用意したほうがいいかもしれない。初回授業時に教室設備を確認したうえで、改めて指示を出すことにする。

授業コード	14037		
授業科目名	<b>美術史Ⅱ(後)</b>		
担当者名	青山 勝(アオヤマ マサル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜1限

講義の内容	<p>私たちは毎日、言葉を聞いたり話したりするのを同じくらい、あるいはそれ以上に、さまざまな「イメージ」に接しながら生活しています。しかし、多くの人が初等教育以来、言葉の「読み書き能力」を身につけるための教育を受けてきているのに対して、イメージの「読み書き能力」について学ぶ機会はまだあまり提供されてきませんでした。そのような能力を身につけるためには、イメージの「語彙」や「文法」を学び、またイメージの「歴史」を知ることが必要です。そのような観点から、この「美術史Ⅱ」の授業を、現代人に必須のイメージの「読み書き能力」の基礎を養うための講座の一つと位置づけてみたいと思います。実際、古今東西の優れた美術作品をさまざまな観点から深く理解することは、イメージを「読み取る」能力を磨くための恰好のレッスンになってくれるでしょう。</p> <p>したがって、この授業では、ルネサンス美術から現代アートまでさまざまな美術作品を取り上げますが、いわゆる「通史的なスタイルは避けたい」と思います。一定の知識の獲得(時代ごとの「様式」の特徴、美術運動、技法、画家の名前等々)も重要ですが、それ以上に、個々の「イメージ」を分析的に「見ること」、そのことを深められるようなクラスにしていきたいと思います。ルネサンス絵画における「遠近法」の成立の過程、また20世紀におけるその崩壊、そうした話題を中心に、具体的な作例を通じて視覚的に読み取っていきます。</p> <p>なお、この授業は、2009年度の「美術史Ⅰ」(担当:青山勝)と重なる内容の授業です。2009年度の「美術史Ⅰ」の単位取得者は重ねて登録しないようにしてください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルネサンス以来の西洋美術の流れの概略を理解する</li> <li>・人が「奥行」を理解するシステムを理解する</li> <li>・ルネサンス絵画において成立したいわゆる「遠近法」がどのようなものかを理解する</li> <li>・その成立のプロセスを具体的な作例を通じて理解する</li> <li>・ルネサンス以前、初期ルネサンス、盛期ルネサンス、マニエリスムの絵画の特徴を、「空間」の観点から理解し、絵を見てそれがどの時代に属するものか推測できるようになる</li> <li>・ルネサンス絵画とバロック絵画との違いが見分けられるようになる</li> <li>・19世紀から20世紀にかけての美術の流れについて概略を理解する</li> <li>・美術におけるモダニズムを、遠近法の観点から理解する</li> <li>・「アヴァンギャルド」とは何かを理解する</li> <li>・1960年代以降の「現代アート」の諸相を知る</li> </ul> <p>など</p>
講義方法	スクリーンに画像を映しながら解説等を行います。受講人数にもよりますが、可能な限り、一方的な説明に終始するのではなく、受講者自身が口頭で画像の分析を行う演習の機会を取り入れます。ワークシートを配布し、それによって授業内容を整理してもらった場合もあります。
準備学習	美術史についての深い知識等を前提とする授業ではありませんが、受講にあたって、美術に対する一定の関心は必要です。ふだんから、さまざまな美術展に積極的に出かけ、美術に親しむ機会を増やすように努めてください。
成績評価	<p>以下を目安に総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点(積極的な受講態度、課題提出等) 70%</li> <li>・授業最終日に行う確認テスト 30%</li> </ul> <p>原則として10回以上出席し、最終日の確認テストを受けなければ評価しません。</p>
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション</li> <li>2 「見ること」とは?</li> <li>3 「奥行知覚」をめぐる</li> </ol>

	4-7 ルネサンスの〈遠近法〉:その成立と展開 8-9 ルネサンスとバロック:様式分析入門 10-12 美術におけるモダニズム:純粹視覚 13-14 現代アート:「視覚」から「思考」へ 15 確認テスト (上記の予定は変更になる場合もあります)
教科書	特になし。必要に応じてコピー等を配布します。
講義関連事項	この授業は、2009年度の「美術史I」(担当:青山勝)と重なる内容の授業です。2009年度の「美術史I」の単位取得者は重ねて登録しないようにしてください。

授業コード	14057		
授業科目名	<b>ファンタジー研究(前)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)、上村くにこ(ウエムラ クニコ)、港道 隆(ミナトミチ タカシ)、大西彩子(オオニシ アヤコ)		
配当年次	3・4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
オフィスアワー	質問や相談は世話人(西のオフィスアワーは金曜3限)まで。		

講義の内容	ファンタジーの世界は一見、非現実で合理性がないように見える。妖精、小人、鬼、妖怪、天使等のように、この世には見えないはずの存在が目の前に出現し、跳梁跋扈する。善と悪との対比が激しく、しばしば善悪の価値がひっくりかえることも特徴である。なによりも私たちの心を捉えてやまないのは、この破天荒な世界が不思議なリアリティをもって迫ってくることである。講義では4人の教員が、神話学・心理学・文学・哲学等の視点を踏まえながら、一見非現実なファンタジーの世界のリアリティについて考えてゆく。
到達目標	ファンタジーの多様なあり方を知るとともに、人間にとってファンタジーが意味するものについて理解を深める。
講義方法	4人の教員のリレー方式で行う。世話人は西。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	出席と各教員が課す課題および小テストで総合的に評価する。
講義構成	4月8日 オリエンテーション(西) 4月15日 文学史の中のファンタジー(西) 4月22日 ファンタジー文学とリアリズム文学(西) 5月6日 地獄の想像力1(キリスト教)(上村) 5月13日 地獄の想像力2(キリスト教)(上村) 5月20日 地獄の想像力3(仏教)(上村) 5月27日 ファンタジーと心理学(大西) 6月3日 ファンタジーにみる子どもの発達(大西) 6月10日 ファンタジーにみる子どもの心(大西) 6月17日 (港道)意味と無意味の差異 6月24日 (港道)ルイス・キャロルの論理学1 7月1日 (港道)ルイス・キャロルの論理学2 7月8日 まとめ(西) 7月15日 レポート試験(西)
教科書	教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書・資料	

授業コード	14030		
授業科目名	<b>文学思想史(文学思想史I)(後)</b>		
担当者名	西 欣也(ニシ キンヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

オフィスアワー	金曜3限ほか随時(メールでアポイントメントをとってください)
講義の内容	文学を理論的、歴史的に論じるための入門講義。
到達目標	文学作品における人物造形の比較分析を通じて、人間の本質について考察するとともに、古代から現代に至る文学史の基礎的知識を習得する。
講義方法	講義プラス討議。
準備学習	特に必要としない。
成績評価	平常点によるものとする。なお、受講者は、積極的な発言をはじめとする参加によって評価されることをあらかじめ了解されたい。
講義構成	毎週いくつかの文学作品を紹介し、男性性と女性性、自由と正義、フィクションとファクトといった複数の軸を使いながら人物像を比較考察し、参加者自身の人間像とつきあわせながら人間探究を深めてゆく。 ・人は自らの欲望と義務とのあいだでどのような判断を行い、どのような行為や発話を選ぶか ・それを他者はどのように意味付けるか ・どのような境遇や運命がどのような人格を生み出すか ・愛情、自尊心、不安、希望はどのような関係にあり、どのような現れ方をするか ・それが文学作品に表現されたとき、どのような描写が説得力を持ち、感動を生むか といった様々な問題を、具体的作品の登場人物にヒントを求めながら考えていく。
教科書	教科書は使用しない。
参考書・資料	参考書については講義のなかで適宜指示・紹介する。資料はプリントを配布する。
担当者から一言	予備知識は全くありませんが、自分がどのように感じ、考えているか述べなければ単位が出ません。覚悟して受講してください。

授業コード	14067		
授業科目名	<b>防災心理学(前)</b>		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	災害とは、個人や社会の対処能力を超えた、不可抗力的な出来事や状況をいう。それは、個人や社会の機能を一時的に崩壊させ、混乱と苦しみをもたらす。しかし一方で、私たち人間は、災害という経験から多くのことを学んできた。防災の歴史は、文明の発展の歴史でもある。 この講義では、まず心理社会的な影響という視点から、災害という状況について学んでいく。続いて、ではそのような状況に対して、私たちに何ができるのかを考えていきたい。 なお、この講義では自然災害を中心に扱うが、扱われる内容は他に、私たちが遭遇する可能性のあるさまざまなトラウマティックな出来事(事故や犯罪被害など)も含んでいる。災害の悲惨さについて触れていくことになるが、同時に、人間のたくましさや回復力についても学べる内容を目指したい。
到達目標	・災害が及ぼす心理的、社会的な影響を理解することができる。 ・そうした影響に対処する方法を理解することができる。
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	災害や事故、事件を報じている新聞やニュースに日頃から親しみ、そうした出来事がどのように社会に伝えられ、受けとめられていくか、注意深く接してください。
成績評価	毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。 評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。 6回以上の欠席には、単位を認定しません。
講義構成	およそ以下の内容で行なう。  1. 災害とは 災害が及ぼすさまざまな心理的影響 災害とコミュニティ 災害支援とは 支援者・救援者の問題



	<p>2. ト라우マ、PTSD          ト라우マの歴史          ストレスとトラウマ          長期反復性トラウマ</p> <p>3. 復興と回復          身近な人を支えるためにできること          セルフケアとストレスマネジメント          PTSDの治療法          サイコロジカル・ファーストエイド          ト라우マと心の成長</p>
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。
参考書・資料	B. ラファエル『災害の襲うとき』石丸正訳, みすず書房

授業コード	14028		
授業科目名	<b>ライフサイクル論Ⅰ(後)</b>		
担当者名	明石加代(アカシ カヨ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	<p>「ライフサイクル」とは、人がこの世に生を享けてから死に至るまでの、身体的・心理的・社会的な移りゆきのことである。人生周期ともいう。この講義では、ライフサイクルにおける心理的な問題を、身近な題材を用いながら扱っていく。発達心理学と重なる内容もあるが、心が成長するとはどういうことか、よりよい人生とはどのようなものか、各受講生が自分なりの考えを深められるような時間にしていきたいと考えている。          なお本講義ではライフサイクルの前半部分、誕生から青年期までを取りあげる。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年期までを扱った発達心理学の基礎概念を理解することができる。</li> <li>・すでに発達心理学を学んだ人は、それらの知識を人生という大きな流れにおいてみたり、身近な題材にあてはめて考えてみたりすることで、より深く理解することができる。</li> </ul>
講義方法	講義形式で行なう。
準備学習	講義では、1回につきひとつのテーマを扱いますが、習ったことを常に復習するよう心がけてください。各テーマのつながりを自分なりに見つけていくことで、理解できることの幅は大きく広がります。
成績評価	<p>毎回の授業終了時に、ミニレポートの提出があります。ミニレポートの内容から、どの程度授業に主体的に取り組めたか判断します。</p> <p>評価は定期試験が50%、ミニレポートが50%の割合で行ないます。</p> <p>6回以上の欠席には、単位を認定しません。</p>
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. E・エリクソンとライフサイクル論</li> <li>3. 子どもの誕生:妊娠・出産をめぐる</li> <li>4. 乳児期(1)</li> <li>5. 乳児期(2): 人生早期における環境との相互作用</li> <li>6. 幼児期:「私になること」のはじまり</li> <li>7. 児童期(1)</li> <li>8. 児童期(2): 世界がひらかれるとき</li> <li>9. 発達障害の世界を知る</li> <li>10. 思春期(1)</li> <li>11. 思春期(2): 思春期の危機</li> <li>12. 青年期: 私を引き受けて生きていくこと</li> <li>13. 青年期から成人期へ: 私であることと愛すること</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>
教科書	使用しません。 授業時に毎回レジュメを配付します。

授業コード	14029		
授業科目名	<b>ライフサイクル論Ⅱ(後)</b>		
担当者名	宮川貴美子(ミヤガワ キミコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	少子高齢社会の到来は、ライフサイクルという人の一生のありようを大きく変化させ、一人ひとりの価値観や生き方の多様化をもたらした。このような現代に生きる私たちは、これからの時間—成人期以降の人生、とりわけ中年期から老年期—をいかに生きるかを考え、自分なりの意味づけをするということが大事なことであろう。そこで本講義では成人期、中年期、老年期を中心に、それぞれの時期にみられる心理的特性と発達課題、人生後半の課題について学び、考えることを目的とする。また高齢社会を迎えて久しいわが国においては、「老い」の問題を考えることが重要なテーマのひとつであることから、各論最後の「ライフサイクルにおける老いの諸相」では、高齢者をとりまくさまざまな問題をとり上げつつ、高齢者理解を深めたい。
到達目標	成人期、中年期、老年期をめぐる課題やさまざまな問題について学び、考え、理解を深めること。
講義方法	主に講義形式により行うが、授業中に数回、小レポートを提出してもらう予定である。
準備学習	ライフサイクル的視点にたつて「いかに生きるのか」ということについて、受講者それぞれに問題意識をもって受講してください。
成績評価	期末試験の成績(80%)とレポート(20%)をもって、総合的に評価する。
講義構成	全体をおおむね5期に分けて以下のことを学ぶ。また講義のほか、ライフサイクルをめぐる問題を扱った映像資料を用いて理解を深める。 1. ライフサイクルの現代的意義 2. ライフサイクルにおける成人期 ・成人期とは ・成人期をめぐる諸理論と発達課題—エリクソン、ハヴィガースト、レビンソンなど ・女性のライフサイクル ・心の危機と問題 3. ライフサイクルにおける中年期 ・中年とは ・中年期をめぐる諸理論と発達課題—ユング、ほか ・更年期の問題 ・心の危機と問題 4. ライフサイクルにおける老年期 ・終末期(ターミナル)を生きる—いかに死ぬかということ ・老年期をめぐる諸理論と発達課題 ・心の危機と問題 5. ライフサイクルにおける老いの諸相 ・高齢者と死 ・老いの現実 ・高齢者への心理的援助
教科書	教科書は特に指定しない。
参考書・資料	参考書は適宜、授業の中で紹介するが、資料は講義内容に応じて配付する。
講義関連事項	心理学、心理学基礎論、発達心理学、臨床心理学、深層心理学など
担当者から一言	成人期、中年期、老年期をめぐるさまざまな問題に目を向けて、その問題意識を自分自身のこととして捉え、そのときに向けて「今、何を準備しておくのか」についても考えていきたいと思います。

授業コード	14025		
授業科目名	<b>臨床心理学</b>		
担当者名	横山 博(ヨコヤマ ヒロシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)

オフィスアワー	オンデマンドで
講義の内容	精神医学で分類される心の病にどんなものがあるかを講義した上で、それらを理解するための理論を講義する。内容は1、フロイト理論、2、対象関係論、3、ユング理論の順で紹介する。随時事例を交え、理解しやすいように努める。まだ私は精神科医であり、ユング派の分析家であるため、ユングの概念の方をより詳しく、神話やおとぎ話を例に出しながら講ずる。そして、心理療法の基本的なことを紹介した上で夢分析の方法、箱庭療法などイメージを通じた治療法を紹介する。
到達目標	この授業を通して、心の病の奥深さと無意識の力動性を理解してもらうこと。
講義方法	板書をレジュメ的にしつつ講義していく。
準備学習	『看護のための精神医学』など精神医学概論や河合隼雄『コンプレックス』『ユング心理学入門』などを講義と併行的に読むこと。
成績評価	学期末の記述試験による。持ち込み不可。
講義構成	1、臨床心理学とは何か。 2、臨床心理学のフィールド。 3、臨床心理学が対象とする心の病。 イ、神経症、口、精神病、八人格障害、 ニ、現代のトピックス；不登校、摂食障害、抑うつ、PTSD。 4、心の病を理解する理論。 イ、フロイト理論、ロ、対象関係論、ハ、マラー、 エリクソン、ニ、ユング理論。 5、心の病への心理療法。 イ、心理療法の基礎、ロ、心理療法の理論、ハ、夢理論、 ニ、夢分析の実際、ホ、箱庭療法、遊戯療法、他。
教科書	なし。
参考書・資料	『神話のなかの女たち』（横山博、人文書院）『心理療法 言葉／イメージ／宗教性』（横山博編、新曜社）『心理療法とこころの深層』（横山博、新曜社）『ユング心理学入門』（河合隼雄、倍風館）など。
担当者から一言	板書をメモるだけでは理解出来ないから注意。

授業コード	14017		
授業科目名	<b>倫理思想基礎論</b>		
担当者名	樫 則章(カタギ ノリアキ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜4限)、後期(木曜4限)
講義の内容	倫理思想は確たる世界観に立脚した上で「私たちはどう生きるべきか」という問題に答え、私たち一人ひとりに人生観を与えるものでなければならない。このような認識のもと、本授業では、はじめに現代の規範倫理理論およびメタ倫理理論について概説し、次に現代の医学・医療が私たちにつきつける倫理的問題について検討します。要するに本授業の目的は、学生のみなさんが自分なりの倫理観、人生観(死生観)を形成する際の一助となることです。		
到達目標	前期:全体としては、授業で取り上げられる規範倫理学説の概要を述べることを到達目標としますが、各回については授業用プリントに明示します。 後期:全体としては、前期で理解した規範倫理学説をふまえた上で、医学・医療に関する倫理的問題について自分なりの考えを述べることを到達目標としますが、各回については授業用プリントに明示します。		
講義方法	前期・後期ともに教科書は使用せず、授業用プリントを使って講義形式で授業を進めます。また、パワーポイントを使って、写真、図表、動画を示しながら理解を深めることができますようにします。授業用プリントはMyKONANIにあります。第2回以降の分は各自でプリントアウトしてください。		
準備学習	授業用プリントを事前にプリントアウトして、各回の到達目標を確認しておいてください。		
成績評価	前期末および後期末の試験の成績で評価します。前期試験を受験しなかった場合、前期分の成績は0点として処理します。レポートの提出等で前期分の成績を評価することはしません。		
講義構成	前期 01 倫理、倫理学、倫理的相対主義 02 倫理的主観主義と倫理的客観主義 03 倫理的利己主義		

	04 自然法思想 05 カント主義01 06 カント主義02 07 功利主義01 08 功利主義02 09 権利基底型倫理学 10 契約論倫理学 11 徳倫理学 12 ケア倫理学 13 その他の倫理理論(原則主義、決疑論、フェミニズム、障害学) 14 まとめ 15 試験  後期 01 現代社会と医学・医療 02 医師－患者関係とインフォームド・コンセント 03 医学研究の倫理 04 生命維持治療の不開始と中止 05 安楽死 06 脳死 07 移植医療 08 人工妊娠中絶 09 生命の選別 10 生殖補助医療 11 胚・胎児の研究と利用 12 遺伝子医療 13 健康権と医療権 14 まとめ 15 試験
教科書	前期・後期ともに教科書は使用しません。
参考書・資料	前期:リチャード・ノーマン『道徳の哲学者たち』(塚崎 智、石崎嘉彦、樫 則章監訳、ナカニシヤ出版、2001年)、 マイケル・スミス『道徳の中心問題』(樫 則章監訳、ナカニシヤ出版、2006年) 後期:『生命倫理百科事典』(生命倫理百科事典翻訳刊行委員会編(代表:粟屋剛、編集幹事:樫 則章ほか)丸 善株式会社、2007年)、伊勢田哲治・樫 則章編著『生命倫理学と功利主義』(ナカニシヤ出版、2006年)、伏木信 次・樫 則章・霜田 求編著『生命倫理と医療倫理』(金芳堂、2004年)、ピーター・シンガー『生と死の倫理』(樫 則章訳、昭和堂、1998年)、樫 則章ほか『医療と生命』(ナカニシヤ出版、2007年)
講義関連事項	倫理思想を理解するにはできるだけ広い視野に立てるようさまざまな分野に対して関心をもつ必要がありますが、とくに哲学思想基礎論は並行して受講してください。
担当者から一言	刺激的でおもしろく、めりはりのある理解しやすい授業になるよう努力します。

授業コード	14066		
授業科目名	<b>倫理思想史(後)</b>		
担当者名	港道 隆(ミナトミチ タカシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	金曜16:30分以降		

講義の内容	近代倫理思想の要を、哲学者カントと、同時代の文学者マルキ・ド・サドとを突き合わせることによって浮き彫りにする。そこから見えてくる現代社会の問題をともに考える。
到達目標	哲学と文学から出発して、われわれの在り方についての精神分析的な理解をも目指す。
講義方法	講義形式で進める。
準備学習	特になし。
成績評価	学年末の試験で評価する。
講義構成	1. カント倫理学の基本としての「自由」の概念. 2. カントとフランス革命.

	<ul style="list-style-type: none"> <li>3. フランス革命と文学者サド.</li> <li>4. M. ホルクハイマーTh. アドルノ『啓蒙の弁証法』における「カントとサド」.</li> <li>5. ジャック・ラカンの論文「カントとサド」.</li> </ul>
教科書	特になし。
参考書・資料	その都度指示する。

---